日露戰局講和私議

842
230

拜啓。時下炎暑の候、益々御健全にて邦家の御爲め御盡瘁被成下、大慶至極と存じ罷在候。さて、討露戰役も上下一致の盡力により、且つは海陸軍人の忠勇義烈なる精神により、世界無比の偉功を奏し、遂に講和を成して凱旋せしむるに至りたるは、痛快の至に御座候。左候へば、今度の講和談判も存外手早く相片附き、光榮なる平和を贏ち得る筈には候へども、敵は名高き横着千萬の國柄にて候へば容易に我國の要求には從ひ申すべしとも覺えず、假令談判は纏まるとも、こは一時の平和にして、永久の平和にあらざるべきかと焦慮無限に存居候。抑々滿洲問題は、露國が故なく他の國を侵略する不方の行爲に候へば、單

38 8 7
交内

に一地方の國際係爭にのみ止らずして、實は世界全體に渉れる人道問題と認むべき儀に有之候。畢竟露國の專横も、守るに易く攻むるに難き形勝の地に據りたる爲めにて、而も領地は廣大無邊、その國力は際限なく、その物資は盡ることなき無双の大國なる故に、自然我儘勝手なる所行を働く儀に候へば、我が日本國民は天に代つてこの無道を膺ち懲し、露國の所領を削減して彼我國力の平均を求め、向後如何樣なる事ありても彼より手出しの出來ぬように致置かずしては相成るまじき次第に候。世界平和の保障も、斯くの如くならでは確立致すまじく、平和の保障相立たずして干戈を歛め再び開戰と相成りては、

講和全權委員に賜はりたる　勅語の御趣意にも相背き、且は後日の禍も測り難き儀に候へば國民たるものは只外交當局者にのみ依賴して子孫百年の大計を放任致置くべき時節にはあるまじく候。依ては卑見のある所を一々忌憚なく披瀝致置き候へば、官吏、議員、政黨員、新聞記者各位は申すに及ばず、教育家、宗教家、法律家、經濟家、實業家諸彦は言ふまでもなく、農工商業等すべての階級團體に論なく、擧國一致の態度を以て、外交當局の後援と相成り此の戰勝の効果を中外に發揮して、日本帝國の天職を實踐致したきものにて候。尙今回の戰役は、帝國興廢の決する所、世界の運命の定まる所、文明の消長する所に候

へば、有志の方々は本問題に關して利害得失を十分御研究なし下され何卒賛否兩樣とも御意見御洩らし下され度候。誠に、今日は千載の一遇、この時運を空しく過し候ては、最早帝國の發展も是迄と存居候、處、講和條件につき奇怪至極の言説のみ屢々耳に致し容易ならざる次第と存候間、衷情默止するに忍びず、聊微意のある所を披陳して、講和全權委員に呈し、併せて大方の諸彦に訴へ申候。頓首。

明治三十八年七月八日小村全權委員を横濱埠頭に送りて

西澤之助

英風弘國

乙巳六月
竹亭題

福禄寿喜

乾隆御覽之寶

乾隆御覽之寶

了了禪
極法照
〻所
彩〻
〻〻
〻〻

明治三十年
初秋
大元題

拜啓貴稿逐一披見致候今の時に於て折衝の重任に當る者異常の偉器たりとも古今に鑑み衆說に聽かざる可からざるは言を俟たざる義に候言々句々熱血に成れる本篇の如きは國論の嚮ふ所を指導して餘蘊なしと謂ふ可く任に當る者に資するは勿論一般民

心を激勵するの効尠少ならざる可し

と信じ候兎に角至急御印行の程千萬

希望不堪候匆々

明治三十八年七月五日

渡邊國武

西澤之助殿

日露戰局講和私議

目次

第一章　帝國戰勝の効果……一

奉天の會戰と列國の反響……二

日本海の海戰と露國の屈服……六

合衆國大統領の講和の提議……九

姑息の平和、他年東洋大亂の禍機……一六

第二章　東洋平和の保障……二四

是日本の要求にあらず、露國の講和條件なり……二六

何ぞ最小限度と謂ふや、何ぞ最大限度と謂はざる……三二

先づ自衛の道を立てよ然る後に隣邦を扶植せよ……三七

帝國の策源地は內地に設けずして大陸に設けよ……三八

滿州の代償地を西比利亞に求めよ……三三

日本移民の上陸點……三四

西比利亞は悉是露人の侵略地……三七

東察加の將來(一)……六八
東察加の將來(二)……七九
東察加の將來(三)……八〇
沿海州割壌の究竟目的……八二
黑龍江流域三州の割壌……八五
滿州の背面防備……八八
講和論者の軟派と硬派……八九
是軍人を辱しむるの言……九〇
大統領の好意か惡意か……九三
往いてローズベルトに告げよ……九七

第三章　日本の世界政策……九一

露國の侵界、武力的世界統一……九四
討露の目的、道德的世界聯盟……九七
人道の扶植、平和の保障、文明の擁護……九九
日本帝國の一大天職……九一

戰勝の原因、天祐、神助、人力……九二

第四章　世界平和の保障……九五

世界政策と天皇……九五
日露國力の懸隔、同胞國民の責任……九八
講和條件の二大眼目……一〇一
西比利亞割取の難易……一〇五
西比利亞の廣袤人口の疎密……一〇六
西比利亞の富源、物產の價額……一〇八
露國の將來、日本の壓迫、兵馬の効力……一一
東部西比利亞割壌の必要(一)……一一三
東部西比利亞割壌の必要(二)……一一六
西部西比利亞の中立と解放……一一七
中央亞細亞高加索の中立……一一八
世界に於ける政治上低氣壓の發生地帶……一二〇
露國の危險、世界列國共同の敵……一二一

日英同盟擴張の眞意義、中央亞細亞の經略……一二九
西比利亞鐵道の將來、國際貿易の中心……一三一

第五章　講和談判の時機……一三六

姑息の講和論を排す(一)……一三九
姑息の講和論を排す(二)……一三一
特派全權大使に望む……一三三
露國に誠意なし、是一時の休戰のみ……一三四
姑息の講和論を排す(三)……一三五
露國の內治外交の瓦解、革命的氣運……一三七
姑息の講和論を排す(四)……一三九
西比利亞占領の効果……一四〇
姑息の講和論を排す(五)……一四一
軍費の資源、內債、外債……一四三
帝國の武力、最後の勝利……一四六
與國の氣運、卓勵風發、千載一遇の時……一四八

日露戰局講和私議

第一章　帝國戰勝の効果

西澤之助著

奉天の大勝と日本海の全捷とは、露國の兵力を破壞して、殆ど起つこと能はざらしめ、北米合衆國の提議によりて、講和談判を開くに至りたりと雖、戰局の前途は尙遙遠なることを論ず。

露國討伐の師大に捷ちて、皇軍一たび北に向ふや、疾風枯葉を捲くが如く、敵は奉天附近に於て最後の抵抗を試みたれども、我が將卒の神機妙算と拔山倒海の勇氣には當るべくもあらずして、三十八萬の大軍は全く包圍の中に陷り、歷史あつてより未曾有らざるところの敗衂を受けて、北滿州

に潰走せり。

之を戰史に徵するに、ワートルローの戰は周く人口に膾炙する乾坤一擲の大激戰と稱すれども、彼我合せて僅に二十一萬に過ぎず、ライプチヒの戰は古來絶無の最大會戰と稱すと雖、兩軍の兵力尙且五十萬に滿たざりき。而も、奉天の會戰は、八十餘萬の貔貅を放つて、龍驤虎騰の活劇を演じ、結局我軍の武勇を以て敵の全軍を覆し、全く殲滅せしめたれば、其戰功の偉大なる、殆ど物の比すべきなし。露都震駭、策の出づる所を知らず。宇內列國が驚嘆措くこと能はざりしは、其豈理由なしとせんや。

南滿州は、此の如くして、赫々たる旭日帝國の威風を仰げり。是より我軍の攻擊すべきハルビン、ウラジヲストックは、皆是指顧の間に在り。敵を興安嶺以西に驅逐して、北滿州を掃蕩し、鞭を揚げて西比利亞の曠野を指すは將に半歲を出でざらんとす。西比利亞の地、沃野千里、其富源は無盡藏と稱せられ、面積歐洲全土よりも遙に廣しといふと雖、開拓日尙淺きが故に、無人の地を行くに異らず。而して著名なる村落都邑は、西比利亞鐵道の沿線にあるのみにして、敵の軍隊の根據地とするもの、其他に一も無きが故に、足一たび此地に到らば、恰も群羊を狩るが如く、長驅直に歐洲に迫るは、是固より易々たるのみ。

○奉天の會戰と列國の反響

戰局の前途此の如く、勝敗の大勢、亦定れり。此に於てか、

列國は講和の機會到れりとなし、敵の唯一の盟邦たる佛國銀行家すら、露國の爲に軍費を供給することを絶對的に拒まんとし、露佛同盟の根柢も、次第に動搖するに至れり。

英米の新聞紙が、口を極めて我國の勝利を謳歌したることは、人の皆知る所にして、『是事實上、露軍の全滅なり』と絶叫し、獨逸の輿論、亦奉天の大捷を認めて、『日本の軍略は露國に致命傷を與へ、その勝利は世界最大のものなり』といひ、『千九百五年の戰局は茲に決定したり』と論ぜり。

更に飜つて、佛國新聞紙の論調を見ずや。ジュルナルは謂はざりしか、『露軍は今回の會戰に於て、初めて復讎の望なきを知り、全く絶望の地位にあることを確認せり』と。デバは謂はざりしか、『露國は、到底嚴酷なる條件に應じて、和議を結ぶの外なからん。然らずんば、極めて不利なる形勢に於て戰爭を再開し、其全軍を覆さるゝに至るべし』と。而して、ルタンは、盟邦の爲に策を薦めて、『平和條件は嚴酷なるべし。されど、露國の存亡を危くする程のものにはあらざるべきが故に宜しく和を請ふべし』といひ、『我が盟邦は、極東の一隅にのみ全力を注ぎて、其他の部分の活動を中止し、中央亞細亞と近東と歐洲中原の方面とを忘却するを得るか』といひて、露國の政策の誤れることを諷刺したり。クレマンソーが、オーレル紙上『最早、露佛同盟の軍事上の價値は全く一變して、佛國の不利益を來したり』と痛論したる前後に於て、突如、獨逸がモロッコ問題に干渉して、傍若無人の擧動を演じ、露國は勿論、佛國をすら顏色なからしめたるを見れば、奉天の

大捷が、世界に向つて非常の影響をなしたるを知るべし。

○日本海の海戰と露國の屈服

顧れば露國は四面楚歌の聲のみ。之に加ふるに、敵は國內到處に人民蜂起して自由を求め、憲法を求め、叛亂の形勢全く成りて容易に鎭定すべからざるあり。外には大軍を一萬露里（ロエルスト）の異城に暴露して、物資の供給十分ならず、西比利亞鐵道を以てしては、到底戰爭を繼續することを得ざるが故に、その複線工事すら拋棄して、呆然自失の狀態にあり。敵の君臣が鳩首して戰運輓回の議を凝らし、或は人民の請を容れて憲法政治を行はんといひ、或は萬難を排除しても、新に四十萬の動員令を下さんといひ、講和談判の風說すら、

吾人の耳朶を打ちたること、蓋、一再にあらざるなり。

されば講和は風說のみに止りて、容易に來ることなかりき。敵は旅順の陷落と共に、太平洋艦隊を全く喪失したれども、尙强大なる婆羅的艦隊の存するありて、優に帝國艦隊に對抗するの力を有し、旅順救援の目的を以て派遣せられ、中途マダカスカルにありて、將に發向の準備を修めたればなり。海權の恢復、或は期すべし。而して海上の權力だに掌握するを得ば、日本軍隊を本國より全く隔離して窮地に立たしめ、之を大陸より擊攘するの機會なきにあらずと信じたればなり。

ロヂェストウェンスキーは、此の如き重大なる使命を帶びて東航し、その支那海に入りたる時は、威風凜然四隣を壓し、軍

容の盛なる、遙に必勝艦隊の昔を想ひ起さしむ。其の戰艦は我に倍し、裝甲海防艦、巡洋艦、特務艦等を合算すれば、威力實に侮る可らず。宜なり、堂々として對馬海峽に入り來り、悍然として强行通過せんとしたるや。

斯くて、日露の興亡を決する大海戰は開かれたり。近世海軍の發達せる一切の戰術と、恐るべき一切の武器は、皆悉く使用せられ、戰線三百海里に渉りて、其の慘劇と壯觀とは世界の曾て觀ざるところ、其の結果も亦世界の未曾て觀ること能はざるものなりき。決戰二晝夜に渉りて、必勝艦隊は殆ど全く擊沈せられ、然らざれば捕獲せられて其餘力を殘さゞるに、我は一艦をも失はず、士氣旺盛にして世界を睨破する概ありしなり。

報を得て、露國官民は驚愕爲さんとする所を知らず、佛國新聞紙は哀悼の辭をつらねて、同盟國の末路を弔ひ、英國は之を以て『トラファルガル以上の成功なり』と喜び、『假令ネルソン出づと雖、毫も東鄕提督に加ふる能はざるべし』といひ、而して、歐米各國は、極東に於ける帝國の覇權の優越を確認し、『最早露國は日本の憐憫の下に、講和の途を求むる外なし。然らざれば、敗衂に加ふるに敗衂を以てすべきのみ』と斷言せり。

日本海戰の効果の偉大なることは、我等同胞國民の認めたるよりは、却て歐米諸國の民を感動せしめたること深きが如し。請ふ、先づ敵國をして、その敗軍の結果の酷烈を說かしめよ。聖彼得堡の電報に曰く、

海軍省は、ロジエストウエンスキーの敗殘艦隊より直接報告に接せんと、終日終夜待呆けたる後、夜半に至り、遂に各地より續々到來せる有力なる證據に反抗する念を斷てり。

嗚呼大帝國の運命を載せたる大艦隊は、西佛聯合艦隊のトラファルガーに於けるよりも一層劇甚なる敗北を蒙れり。

日本は自國艦隊に殆ど損害を被ることなくして、敵艦隊を撃滅し了れり。隨つて、彼等は『露國艦隊は、敗北なる文字以上の運命に遭遇したるものなり』と主張す。

チボカトフ艦隊は悉く捕獲及び撃沈せられ、ロジエストウエンスキー艦隊十六隻中、日本公報に示されざるもの只六隻あるのみ。しかも日本艦隊は今尚追撃を加へつゝあり。

敗軍の狀、宛然として觀るが如し。而して、該電報が尚絶望的口氣を以て、

露國たるもの、斷じて海上權の恢復を夢想するを得ず。捕獲せられたる軍艦は、それのみにても第四バルチック艦隊よりは優勢なり。

露帝は報を得て、憂鬱に沈めり。諸報に據るに帝は伏し倒れて慟哭したりといふ。

敗戰は露國の一大打擊なり。陸上に於て戰爭を繼續するの無用なるは到る處に認めらる。『如何なる代價を拂ふとも平和を得ざる可らず』といふ叫聲は必ずや起らん。

自由派は、國家の不幸を見て得々たり。曰く『幾千の生靈、幾億の價ある軍艦を失ふも、自由の爲には、決して高價なりといふべからず』といひて、喜べり。

と謂ふに至つては、すでに敗軍の程度を、超えて、亡國の境遇にあるもの。見よ世界の大帝國は、すでに精神に於て全く崩潰し了れるを。

快報一たび歐洲に至る。列國は甚深の感動を以て之を迎へ、殊に英國は、日本が同盟國たるの故を以て、日本海軍の大捷がトラファルガル海戰の第百周年に相當せるの故を以て、狂喜歡呼して相慶し、タイムスの如き、『今回の大捷は日本の制海權をして確固不拔のものたらしめ、如何なる方法を以てしても、最早敵をして爭ふに由なからしめたり』と稱賛し、

『露國は終に和せざるべからず。然らざれば、東洋に於て地位を失ふに止らず、又歐洲に於ても之を失ふに至らん。』

といひ、『今やバルチック海と雖、之を侵さんとする者あらば、露國は之が防衛に苦むべし』と言放てり。

デーリーテレグラフは曰く『斯くの如き大敗を取りても尚戰爭を繼續せんとするは、愚にして且つ罪惡を犯すものなり』と。デーリーメール之に和して、

『今や露國の解決すべき問題は、平和を克復すべきや否やにあらずして、如何なる平和條件を日本より得べきや否やにあり。今にして、降伏を躊躇せば、すでに蒙れる災害をして益々甚しからしむるに至らんのみ』

といひ、而して、モーニングポストとタイムスとは、日露の講和條件に干渉を加へんとするものゝ有るべからざることを斷言し、

『若、今日の場合に於て列國會議を開催し、戰勝國をして戰勝の利を收めしめざらんとする者ありとも、大英國は之に同意することを能はず。露國は宜しく日本の命ずべき條件の下に講和すべく、萬一干渉を加へんとする者あらば、我が英國は變に應じ、何時たりとも海軍を以て起たんとするの

準備あり』

と極論して、同盟國たる意氣を示せり。

米國の輿論が、此の海戰の結果について盛に我國を謳歌したるは、決して英國に讓るものにはあらざりき。而してニューヨーク、サンの如きは、

『日本が露國艦隊を殲滅し、以て事實上同國の海軍力を碎破したるは、海軍史は勿論、全世界の史乘にも類例を見ざる偉業なり。日本は實に戰勝國なり。借問す、歐洲諸國中、遙に優大なる海軍力を有する英國の外、日本に對し露國に優りたる結果を收め得べきものありや否や』

といへる問を掲げて、日本文明の由來を示し、

『日本が今回の勝利に乘じ、愈々發達して已まざれば、英國と雖、餘り遠からざる將來に於て背後に躍若たらざるを保すべからず』

といへるが如き、ヂーナルが露帝を罵り、

『婆艦隊全滅の報に接して、ザアは啼泣せりと傳へらる。泣けよニコラス汝が支那に於て爲せる暴行、破りたる誓約のために泣けよニコラス。汝が虚榮の犧牲となりて死したる兵卒は幾ばくぞ。彼等が寡婦のため孤兒のために號泣せよ。汝が都市の街上に、白晝銃殺せられたる、數百の無辜の血液の爲めに。汝が國土の到處に、奴隷に劣れる苦役をなせる農民の爲めに、泣けよニコラス。』

といへる如き、言稍矯激に過ぎたるに似たれども、露國の敗軍が米國に如何なる反響を傳へたるか、察知すべからざるにあらず。

轉じて歐洲大陸の評論を見ずや。伊國新聞紙は日本海軍の成功に對して、先づ無限の敬意を表し、これが說明を求むるに、我が國民の報國心の世界に比類なきを以てし、『是戰鬪能力の極めて高度なる發達に歸す』と明言せり。

墺國新聞紙亦我國の勢力の優越なるを激賞し、『露國は日本の同意を得るにあらずんば、亞細亞の海岸に於て國旗を掲ぐることを得ず。今や露國は極東に於ける位置を全く放棄するか、然らざれば講和するかの二者其一を擇ばざるべからざる窮境に陷りたり』と縱論せり。

獨逸は、從來其の隣國に好意を有し、終局の勝利は露國にあるべしと夢想したるものなりき。然るに、日本海戰の結果を見るや、その論調は俄然一變の徵候を示し、

『日本軍の作戰は、海上に於ても、陸上に於ても、等しく燦然たる光輝を放ち、その將帥、組織、管理、交通制度は、全世界の嘆賞に値せり。露國より講和を提議するは、今の時を好機とす。蓋、今日講和せざれば、海軍の全滅は革命派に聲援を與ふること頗大なるものあらん。又、戰爭の繼續は講和條件をして益々重大ならしむべし。且つ諸外國と雖、無謀の戰爭を繼續する資金を供給する者は一も無きことを知らざるべからず。』

と痛言せるは、露國頂門の一針たるべく、佛國新聞紙が露國を評して、『其海軍の大敗は、即、國家の崩壞なり、而して崩壞は死滅なり』と論明し、『凡一國の君主は其臣民を率ゐて殲滅に陷るゝの權利なし』と激昂し、『露帝は國運の危急を解せざる人なり。各强國は須らく彼に勸告するに人命の尊重すべきことを以てし、依て、帝が更に巨多の人命を殞さんとするを抑止すべし』と揚言し、元來露帝が婆羅約艦隊の如き士氣の沮喪せる海軍を以て氣運を挽回せんとしたるの愚策なるを指摘し、『此の如き犯罪的愚策を頑守するものは、實に之を監禁するの價あり』と極論したる、噫、何ぞ其言の痛切にし

て而も冷酷を極むるや。

佛國の同情は、此の如くして次第に露國にそむくに至り、而して、露國に親善なりし外相デルカッセ、亦輿望に叶はずして、遂に其職を辞し去れり。

○合衆國大統領の講和の提議

勢此處に到りては、露國たるもの、亦奈何ともする能はず。各新聞紙が異口同音最も激烈なる語調を以て、戰鬪指揮上の過失を指摘し、至急國民の代表者を招集せざるべからざることを主張して、形勢の危殆なるを聲明したるは固其の所、而して、ノヴオスチーは、今回の敗戰がリネウイッチ將軍に致命的影響を及すべきことを指摘して、その救援の急務を

論ぜる、ノウオエウレミヤが内相を以て長とする委員會の調査結了を待たずして、國民代表者の招集を要求したる、露國政界の風雲の急なる、抑々察するに餘りあらずや。

機會は到れり。此に於てか、北米合衆國大統領ローズベルトは、日露兩國政府に向つて、『戰爭終局の時期すでに到れるにあらざるか』を問ひ、帝國外務大臣は、其の發言者の人格に顧み、『露國との平和は其の確實を十分に保證するに足るべき條件の下に之を復立せんことは固より希望する所なり』とし、帝國政府は全然兩交戰國間に於て直接に講和條件を商議決定すべきことを大統領に覆答せり。

ローズベルト氏の勸告を容れて、平和を克復することは、何人も是れ異議なき所、但、帝國臣民が皆愼重の考量を以て

熟慮せざるべからざるは、北米合衆國大統領の主義目的は、徒に戰爭其物を排するにあらず、今日の狀態に於て、國家の存亡興廢に關する紛議を解決する至高最終の方法は國民的の戰爭に據るの外なきことは、大統領が是認し主張する所なりといふこと是なり。

彼は戰爭を絶對的に忌避する論者にはあらず。國家の存亡をも度外に置きて、只管平和を求めむとするが如きは、寧ろ人類の進歩發達を妨ぐる有害の行爲なりとして、之を嫌忌することは蛇蝎も啻ならざる者なり。彼、能く個中の消息を解す。此に於て、開戰以來、合衆國の輿論を率ゐて、我が國民に同情を寄せ、合衆國の國民が我が帝國の勝敗を以て、自國の勝敗の如き念ひをなし、常に熱烈の感情を以て、こ

の戰爭を觀察しつゝあるは、吾人が能く知る所なり。何ぞや。我が國民は單に自國の存立の爲に戰ふのみにあらずして、又、人道の扶植の爲に戰へばなり。單に人道の爲のみならずして、又、平和の保障の爲に戰へばなり。、單に平和のためのみならず、又、文明の爲に戰へばなり。進歩の爲に戰へばなり。自由の爲に戰へばなり。

人道、平和、進歩、自由、文明の五つは、彼の合衆國民がその建國の初よりして、これが扶植に盡力したる所にして、獨立戰爭も之を目的として行はれ、南北戰爭も亦之が爲に行はれたり。然るに露國のなすところは、皆、事々に之に反す。合衆國民が、日露開戰後、熱心に我に同情し傾投するは、其故なきにあらざるなり。

夫唯我國に同情すること厚きが故に、人道、平和、文明のために、我が人命を限り無く損ずることは、眞に悲慘なる事として、傍觀するに堪へざるなり。

獨、戰爭は人世の悲慘の極なるのみならず、列國の視る所に。據れば、日露兩國勝敗の數は已に決定したるものなり。

露國或は艦艇を造つて其海軍を再興するの意志あるべし。されど、海軍は只艦艇のみを以て成立すべきものにあらず。その海兵の訓練は、少くも三四年の月日を要せざるべからず、而も將校の養成に至つては、少くも十年内外の歲月を積まざるべからざるものなるに、露國海軍は、さきには旅順の開城に際して、第一艦隊の將卒を失ひ、今亦日本海に於て、第二第三艦隊の將卒を喪ひたれば、此の戰役中、彼等は

到底海軍を再興すること能はざるものなり。

すでに海軍は殄滅せられて、餘影を留めざるに至れり。

然るに、陸軍も亦之に劣らざる缺損を生じ、鴨綠江以後、南山、得利寺、大石橋、摩天嶺、遼陽、沙河の會戰を經て、漸次兵員を損失し、而して旅順の開城となり、奉天會戰の殄滅となり、敵國官邊の概算に據れば、病死、負傷、降服等に因りて、無慮七十八萬の大兵を喪ひたるに、未一回も勝利を得たることなきが故に、向後、露軍の運命も想像するに難からず。

勝敗の數、此の如く已に全く明かなるに、尙戰爭を繼續して、無限の人命を喪ふは、事に益なきのみならず、人類一般の利益に鑑みて、寧ろ悲むべきことなるが故に、戰爭終局の提議をなして、刻下の慘事を救はんとするなり。是れぞ大統

領ローズベルトが兩國の間に介立して、講和の端緒を啓きたるものなれば、吾人は相互交綏の態度を執るべき理由を見ず。即、戰爭は我國の全勝を以て終局したるものと認め、我は敵軍を西比利亞以西に驅逐し了れりとして、只人命を救はんが爲に和を講ずるに過ぎずと見るべし。然らずんば、我國は百戰百勝の今日に於て、何を苦んでか大統領の提議を聽き、前途勝利の見込なき敵と交綏の要あらんや。

すでに海軍は全力を擧げて、今や樺太を衝かんとし、又東察加を奪はんとし、ニコリスクを襲ひウラジオストックを封鎖して死命を制せんとしつゝあるにあらずや。又、陸軍は將にハルピンを拔き、チチハルを取り、愛琿を經て、ブラゴウエシチェンスクを陷れ、興安嶺の險を越えて、後貝加爾州、黑龍

州を衝かんとしつゝあるにあらずや。

後貝加爾州、黑龍州、沿海州は、黑龍江の流域にありて、黑龍總督管區に屬し、共に滿州に對しては、包圍の形勢をなせるが故に、戰後、滿州の安全を保たんと欲せば、今に於て、この三州を我手に收め、これが地力を開發し、又その兵備を嚴にして、露國と對抗せざるべからず。

吾人は、滿州より追はれたる露人は必ず蒙古より支那に侵入して、再び極東の平和を擾る時あるを信ぜんと欲す。されば、バイカル湖以西に出でゝ、イルクーツク縣エニセイ縣ヤクーツク州を併有し、黑龍江流域の占領を鞏固にすると共に、併せて蒙古の邊境をも保護するの必要あり。

是等は皆我が帝國の軍事行動の範圍に屬すべき處にし

て、實際占領の必要あり。又實際上、攻略を難しとせざる所なれども、外交も亦是一種の戰にして、而も人命を損ずるの危險を避くることを得るが故に、能ふべくんば、樽俎の間に是等の土地を割讓せしむるを可なりとするのみ。然らずんば、吾人は何の必要ありてか、ローズベルトの言に聽き、百戰百勝の兵を旋して、國家千年の大患を永く子孫に遺すを須ひん。軍事行動は今日尚未だ半に達せず、世界の平和は未だ保障を得るに至らず、我が交戰の目的は遂行することを能はざるに、吾人は何を苦んでか兵を撤するの愚をなすべけんや。

日露交戰の動機は固是自衛の目的に出で、而も世界の平和を保障し、人道を扶植し、文明を催進し、進歩を助成し、自由

を擁護せんが爲なるを思へば、講和條件も、亦其目的を達するものたらざるべからず。

我が海軍が日本海に奇功を奏するや、米國新聞紙は祝して曰く、『露國の敗衂は文明の凱旋なり。是、宗教の故を以て人を虐ぐる金城鐵壁の破壞なり。世界人類の進歩と自由との最大障害物の轉覆なり。列國が露國の敗衂を喜ぶ所以は、世界に對する露國政府の目的と政略とを憎み、この敗衂は、以て世界の永久の平和を來たす原因なりと信ずればなり』と。然り世界の永久の平和は、これ日本國民が國運を睹して露國と戰ひたる目的なり。

平和の斡旋者たるローズベルト之を諒とし、列國の君主人民、又亦之を諒とせん。識らず、我が外交當事者は、如何に

してこの世界の永久平和の保障を確立せんとするか。姑息の平和は却つて露國の報復を準備せしむる所以の道のみ。此の如くんば、今日の平和は、他日東洋の大亂を挑發する禍機を養ふに過ぎざるのみ。識らず、我が同胞國民は、如何にして、この極東の戰亂より延いて世界の大亂を惹き起すべき禍機を一掃せんとするか。

○露國の眞意、姑息の平和、東洋大亂の禍機

吾人日本國民は實に平和を渴望す。されど、我が對手國たる露國官民が、今日に在りて、すでに夢想するところを聞けば、吾人は未だ安んじて講和條件を語るべき時機に到達せざるに似たり。請ふノウオエウレミヤの論調を見よ。

『滿州を拋棄するは是れ露國の恥辱にあらず。日本をして一時樺太に據らしめよ。敵の求めに從ひてウラジヲストックを開放せよ。然り、只是れ一時の事のみ。露國の國力は無限なり。又その恢復力は迅速なりと知らざるか』

知るべし、露國が、今日に於て來りて和議を修めんとするも、只是れ一時の事なるを。思へ、西比利亞鐵道の複線工事は完成せられ、軍隊輸送力の十分に發達したる時に於て、捲土重來の大策を立て、吾人日本國民を驚倒せしめんとするは、將來十年を出でざるべきを。而も、其の背後には、今日に於てすら、幾百萬の大兵ありて爪牙を磨きつゝあるにあらずや。抑々露國の軍隊は世界に有名なるものにして、單に歩兵のみにても、五十二師團の大數に上り、これに騎兵の二

十餘師團、砲兵、工兵、輜重兵等を合算して、七十八師團の陸軍を有し、平時は、人口百三十人毎に一人の兵士を出して、通計一百餘萬に達し、戰時は二十六人毎に一人の兵士を出して、總計五百萬とするの準備あり。然るに、彼は尙飽かずして、戰後、西比利亞軍團のみにて、一百萬の兵を備へ、以て必ず敗軍の恥辱を雪がんと奮勵す。彼が今日に於て、一先和議を結ばんとする眞意の存する所、亦知るべし。

西電は皆報じて曰く、露國政府は日本に向つて休戰の事を議せんとして、而して、目下二個軍團の動員を行はんとするものゝ如しと。然るに之と反對に、我が帝國は大統領の好意に顧み、滿州軍の前進をすら見合はすべしとの意見を持し、一時軍事行動を制限せんとしたる形跡あり。

この形勢は、彼のケナンの如き外國人を動かして、遂に緘默を破らしめ、『休戰は許すべからず。軍事行動を止むる必要いづくにかある。露國の歷史は、全ページ皆虛僞の二字を以て埋めらるゝ歷史なり。一旦卒然として休戰を許さば、この期間を利用して、鐵道の修繕、物資の充實、軍隊の補充等あらゆる準備をなし、來りすでに訂結せる平和條約をすら破却して、逆擊に轉ぜざるを保せず。況んや、償金の支出は露帝の厭ふ所。假令露帝は之が支出を裁可せんと欲するとも、君側にある太公の輩は皆悉く反對し、干戈を執つて再び起つに至るべきは、明なり』と叫ばしむ。外國人すらも、此の如し。吾人は信ず、五千餘萬人、皆悉く眦を決して、外交界の風雲を望み、擧國一致、以て戰勝の光榮を全うせざるべ

からざるを。

すでに、陸上に於ける露國の不信此の如きものあると共に、海上に於ても我が敵は報復の念極めて急なり。見よ昨年の終に於て、新に露帝の裁可したる造船計畫は實に非常の大規模にして、十六億ルーブルの巨額に上れりと謂ふにあらずや。この計畫の完く成るや、露國海軍は新に一萬六千噸の戰鬪艦八隻、一萬三千噸の戰鬪艦八隻、七千七百噸の裝甲巡洋艦六隻六千六百噸の巡洋艦六隻、及五十隻の水雷驅逐艦と一百隻の水雷艇とを加へ來りて、再我を威嚇せんとし、尚その限りなき資源を以て第二期第三期の計畫を立て、再我と海上權を爭はんと擬す。

今次帝國が滿州に於て敵に致命の一大打擊を加へ得たる所以のものは、海上權の獲得に因り、而して帝國の海上權は、十年の後に至るまで、復必しも鞏固を期すべきにあらずとせば、姑息の平和は、實に我國をして必敗の地位に立たしむる所以の道なり。又、東洋諸國をして、最も恐るべき變亂の渦中に投ぜしめ、終には救ふべからざる運命に陷らしむる所以の道なり。識らず、外交當局者は、抑々如何にして永久平和の保障を收め、我が戰勝の光榮を全うせんと欲するか。

第二章　東洋平和の保障

姑息の和議を排し、露領黒龍江流域の三州、即、後貝加爾州、黒龍州、沿海州を割譲せしめて、滿洲の背面防禦とするは、極東の平和を確保する最大要件なることを論ず。

北米合衆國大統領が、獨英諸國を誘ひて後援となし、日露兩交戰國に對して、平和の克復を促すや、帝國政府は大統領の高義を多として其の勸告に應じたり。

今にして之を思へば、帝國は必しも大統領の勸告に應ずる必要ありしにあらず。奉天の大捷といひ、日本海の全勝といひ、前途我が勝利の確實なるを證明するを得たりと雖、我が海陸兩軍は未だ一たびも足を露領に入れしにあらず、東洋平和の保障を確立し得たるにもあらざるが故に、之を

理由として大統領の勸誘を辭するは、寧ろ國民の希望にして、政治上、軍事上、兩つながら事の宜しきを得たるものなりしなり。

帝國は先づ一歩を誤れり。然れども、廟堂人無きにしもあらざるが故に、樽俎の折衝を以て干戈に代ふるも、帝國の目的を達する所以の道に於て、敢て必ずしも不可なるにあらず。此に於てか、吾人國民は、外交當事者に信頼して、我に利益なる方法に於て、帝國の終局目的を遂ぐるの道を講ぜんとするなり。

吾人顧へらく、帝國は戰勝國の權利として其の體面と光榮とを全うするに足る方法に於て、先、會合地の位置を指定し、平和克復の條件についても、必ず敵國の意のあるところ

を認知して、然る後に商議に着手したるならんと。事實は必しも然らざりき。露國は先其の盟邦たる佛國の巴里を以て談判の地となさんと言ひて、戰勝國の如く振舞へり。是れ尙可なり。顧はざりき、我國の志士政客の主張する講和條件なるものは、なるべく最大限度を避けて、最小限度を取らんと勉め、汲々として及ばざるを恐るゝ狀態ならんとは。

講和の案件を定むるに、最大限を以てせずして、最小限を以てせんとす。是即戰敗國たる露國の執るべき態度にして、戰勝國たる日本の爲すべき要求にあらず。百萬の大軍は外にありて風雨に暴露し、世界の曾見たることなき連戰連勝の功を收めつゝあるに際し、志士政客は內にありて飽食

暖衣し、世界の未聞かざるところの姑息軟弱なる案件を以て事に講和に從はんとす。是即外交の軍事に伴はざる我國古來の宿弊なり。吾人は恐る、今に於て此の宿弊を改めずんば、獨り外交のみならず、軍事と雖も亦將に退嬰萎縮の陋態に陷り、國家の元氣、悄然として喪失するの時あるべきことを。滿州の野に灑ぎたる、同胞十萬の鮮血は、決して無代價のものにあらず。我が赳々たる百萬の貔貅が、家を忘れ、身を忘れて、軍旅に從ふは何の爲めぞ。然るに、政界に立てる者、之を意とせず、志士論客之を念はず、卑屈の案件を以て姑息の平和を恢復し、我が戰勝の光榮を空うするが如きあらば、將來帝國の軍人たるもの、何の期する所ありてか、再死を以て戰はむ。

○是日本の要求にあらず、露國の講和條件なり

吾人は如何なる理由を以て、今日世間に唱道せらるゝ講和條件なるものを姑息の案件なりと謂ふか。見よ、彼等が主張する最も強硬なるものゝみを取つて、其要求を考察するも、決して東洋永遠の平和を保障するに足るものなく、帝國自衛の目的をすら達するに足るものなきにあらずや。

一、沿海州の割讓。
二、樺太の奪還。
三、黑龍江通航權の認諾。
四、韓國保護權の認諾。
五、滿州に於ける露國租借地の讓與。
六、滿州に於ける露國の一切の權利と將來の發言權との放棄。
七、東清鐵道ウスリー鐵道所有權の讓與。
八、滿州に於ける一時の帝國統治權の認諾。
九、露國の國境に地域を限りたる中立地帶の設定。
十、將來日本の同意を得ずして清國の領土を割讓し、若くは租借せしめざる事。
十一、中立港に逃竄して武裝を解除せる露國艦艇の讓與。
十二、償金三十億圓。

韓國に於て宗主權を確立すること、滿州に於て一時帝國の統治權を行ふこと、又、樺太は帝國の舊領なれば之を回復すること、滿州に於ける露國の租借地と東清鐵道とを讓與せしむること等は、固より當然の要求なれば、これが可否得失を論ずるに及ばず。中立港に遁竄せる艦艇の引渡等は無論のことなり。但、露國の領土をして、今日の如く滿州に

接壤せしめて、これが處分を怠りながら、該地に對する露國の將來の發言權を放棄せしめんと希望するも、彼が或機會を利用して條約を破り、再び滿州に干渉するが如きことあらば、帝國は如何にしてその不法を責むべきか。

露國は今日に於てすら、蒙古の中立を其の眼中に置かざるが故に、將來、恰克圖(キヤクタ)より張家口を經て北京に達する鐵道を敷設し、以て北清を脅威せんと試むべく、すでに喀什喀爾(カシュガル)に兵を入れて、蒙古侵略の端を啓きたる風聞さへも起りたり。露國をして帝國の承諾なくして清國の土地を割かしめざる約束は不可なし。又露國の國境に中立地帶を置くは可なれども、條約は、之を履行せしむるの實力なくんば何の甲斐なし。將來露國が其の條約を蹂躙して、傍若無人の行動を憚らざるの時あらば、我が帝國は如何にして其の難關に當るべきか。

講和論者の案件が外觀頗る着實に似て、而も實際に効力なきことは此の如し。是尚可なり。論者は今日帝國が連戰連勝の位地にあることをすら忘却し、領土を大陸に有するは煩累を招く虞あれば、單に沿海州の領有を以て甘んぜんとし、甚しきは沿海州全部の必要をすら認めず、只其の漁業權を獲得するを以て足れりと論ずる者あり、黑龍江以南の沿海州の割壤を以て十分なりといふ者あり、否、其必要だに認めず只ウラジヲストックをのみ割取して我が軍港とせよと主張する者あり、其の武裝を解除して商港となさしむれば則ち可なり、永く露國をして領有せしめて其の面目を

全うせしめよと論ずる者あるに至つては、吾人、之を何とか評せむ。吾人は怪む、論者の主張する所は、是我が日本の講和條件にあらずして、露國の講和條件なるを。否、黑龍江以南の沿海州の割壤と及樺太の讓與とは、すでに露國に於てすら、勢已むを得ずとして、豫定せられたる所にあらずや。是等の講和條件がノウオスチーの紙上に見えたるは、奉天大捷の前にあり。然るに、日本海の全勝を經たる今日に於て、この迂濶の言を聽く。敵をして聞かしめば、彼將た之を何とか謂はん。我が政客の時務を解せざる實に斯の如きものあるなり。

○何ぞ最小限と謂ふや、何ぞ最大限と謂はざる

償金の要求は三十億圓を以て限度と認むるものゝ如し。吾人も亦嘗て償金額を算定して一個年二十億圓としたることあり。而して、開戰後一年半を閲したれば、三十億圓の要求は其當を得たるが如しと雖も、帝國の費したる所の軍費は、已に今日までに於て十二億圓に達したれば、尚將來軍隊の全部を引揚ぐる迄の費用は幾億に達すべきかを知らず。これに加ふるに、戰死者の一時賜金、遺族扶助料、負傷者癈疾者等の救護料、軍事公債の利子等を以てすれば、三十億圓の要求は尚且つ少しと謂はざるを得ず。

吾人は現行法律にては、到底戰死者の遺族をして饑に泣かしめざることを得ずと認定するが故に、一年間の戰死者癈疾者を凡十萬人と見積り、遺族若くは家族に對して、年額

二百五十圓の扶助を要するものとすれば、毎年二千五百萬圓づゝ別途の支辨を要すべし。又、この遺族扶助料は國庫の負擔とするよりは寧ろ償金の一部を以て軍人救助基金をつくり、この基金より生ずる所の年額五朱の利を以て遺族に配當することを至當の處置と認むるが故に、これに要する基金として償金五億圓を課せざるべからず。

敵の海陸軍人にして捕虜となりて我國にあるもの七萬六千の多きに上れり。固より我が負傷者にして、敵國の捕虜となりたるものなきにあらずと雖、僅々五百人に過ぎざるが故に、帝國は單に捕虜の交換のみを以て甘んずべからず、その賠償としては五億圓を要求するも亦不可なし。

奈古浦丸を初として、毫も抵抗力なき船舶にして、敵の不法行爲により擊沈せられたるもの數知れず。帝國は之に對しても、又相當の損害賠償を得ざるべからず。

帝國が開戰以來受けたる商工業上の損害を積算すれば、實に幾億の巨額に達せん。是等は普通の慣例上賠償せしむるの限りにあらずといふと雖も、將來帝國が滿州の守備に要する軍費は實に非常の巨額にして、國庫の負擔に堪ふかべらず。又、海上の權力を維持する必要より之を謂ふも、向後海軍の擴張には幾十億の費用を支出せざるべからず。是等は皆悉く今次の戰爭に胚胎したる自然の結果なるが故に、露國に負課すべき償金は如何程過大に見積るとも毫も妨げなき理由あり。

尙彼の露國の歲入は二十億圓と算せられて、その財源は

無盡藏なり、恢復力も亦迅速なるべきが故に、其國力を削弱して、永く報復の機會を失はしむべき必要なきにあらず。

彼の普國が佛國に課するに五十億フランの償金を以てしたる時すら、佛國は直に國力を恢復し、ビスマルクをして百驚を喫せしめたるを思へば、吾人は少くも露國に課するに五十億圓の償金を以てし、その擔保としては西比利亞鐵道を押收し、黑海艦隊を押收し、高加索州の鐵道及び石油坑地を押收し、裏海艦隊を押收し、併せて中央亞細亞にある鐵道を押收せざるべからず。

然るに、償金はすでに支出せる實費の外は要求するを得ずと論ずる公法家あり、三十億圓は多きに過ぎたり、二十億圓にて忍耐は出來ざるかと論ずる實業家あり、戰後一時に

巨額の償金の流入するは經濟社會の順潮を攪亂するの虞あれば、その要求を抑損せざるべからずと論ずる者あるに至つては、言語同斷の沙汰にして、其愚や、終に及ぶべからず。

○先づ自衛の道を立てよ、然る後に隣邦を扶植せよ

韓國の保護權を確立して、その秕政を改革し、滿州に於ける露國の利權を讓與せしめ、一時我國の統治權を行ふことは、獨帝國自衛の權利なるのみならず、又是隣邦扶植の義務なり。

吾人は、韓國の爲に、十年ならずして、すでに二たび大兵を動かし、十幾萬の人命を損し、十幾億の財を糜し、國家の存亡

興廢を賭して、この義戰を決行したり。滿州問題も亦是吾人が人道を扶植せんとする觀念に基きたりと雖、この滿韓地方の爲に、限りなく我が國力を費して、其得る所は失ふ所を償ふに足らず。之に加ふるに、露國をして其境上に大兵を駐めしめ、常に間斷なき壓迫を感ずることは、吾人の堪えざる所にあらずや。

見よ今回の講和を以て、一時平和を克復するとも、滿州は是清國の領土にして、我が帝國の領土にあらず。而も、北方の境上には、殘虐飽くなきの露國ありて、我に怨みを抱くとせば、砲火を以て復再び對抗せざるべからずして、到底永久の平和を期待すべきにあらず。

一旦國際關係にして我に不利なることあらば、彼は必ず

今回の講和條約を廢棄して、滿州蒙古の邊境を犯し、列國を欺懾し、支那を威嚇して、爲さんと欲する所をなさん。この時に當り、我が國情にして露國と對抗するを得ば可なりと雖、然らざれば彼が要求を應諾して、これに從ふの外なかるべく、もし又敵對行爲に出でゝ兵を露國の境上に出だすも、連珠の如き要塞は、彼が獨得の技倆によりて到處に築造せられ、興安嶺外、最早一歩も蹈出だすこと能はずして、再び旅順の惡戰を開くの歎なきを得ざるに至らん。

況して、將來露國に對して砲火相見るの時ありとも、天運必ずしも我に利なるを期すべからず。西比利亞鐵道が複線となりて、敵の軍隊輸送力を倍すべきは、數の最視やすき所、而して我國に捕虜となれる幾萬の士卒は本國に歸りて

海上勤務に從事すべく、有力の艦隊新に成りて、太平洋に入來らば、是豈由々しき大事にあらずや。

○帝國の策源地は內地に設けずして大陸に設けよ

吾人は信ず、我が滿州の守備隊をして、將來永く本國の資源に依賴せしむるは、決して帝國の利益にあらず、又安全なる道にあらずと。上古以來、帝國が海外經營に於て常に失敗を免れざりしは、その策源地を內地に設けて、殖民地をば、只單に一時の足溜りとしたるが爲のみ。韓半島が帝國の勢力範圍に入りたるは、遠く神代の昔にありて、後には任那に日本府を置き、新羅、百濟、高麗をして、屬國たらしめし觀ありしも、海上權の喪失と共に、この好個の殖民地を失はざるを得ざりしにあらずや。豐太閤が征韓の役に功を收むる能はざりしは、亦日韓海峽の海上權の喪失に因れり。我が海上の權力にして後顧の憂なからんには、廟堂の上、征韓論の破裂を見るが如きことなく、老西鄕は決して城山に死するを須ひず、百二都城數萬の健兒は潮の如く朝鮮半島に押寄せて、而して我が上代の舊領を回復するを得たるならん。隨つて亦征淸戰役に幾萬の犧牲を出だすを須ひず、征露戰役に未曾有の大戰爭を開くを要せず、列國の利害關係が錯綜せざる以前に於て、我が帝國は極東の覇權を收め得たりしならんに、德川幕府の鎖國政畧はこの東洋の武國をして全く意味なきものとならしめ、一時帝國の發達をして絕望

の地位に立たしめたり。思ふて此處に至る時は、如何なる高價を拂ひても、吾人は大陸に根據地を設け、もし不幸にして海上權を失ふとも、我が陸軍は本國と離れて活動し得る地歩を占據し置かざるべからず。

婆羅的艦隊の來襲が我が國民をして憂虞に堪えざらしめたるは何の故ぞ。帝國艦隊の全勝が、吾人國民をして驚喜措かざらしめたるは何の故ぞ。而して將來、列國は益海軍を擴張して殆底止する所を知らず、太平洋は列國が其雌雄を決すべき一大戰場たるを思へば、吾人は萬一の場合を思ひて、杞憂を抱くことを禁ずる能はず。

一念茲に及ぶ時は、吾人は今の時に於て、必、大陸に根據地を設け、滿韓地方の援護に從事すると共に、又我國の利權を

確立せざるべからず。

○滿州の代償地を西比利亞に求めよ

試に思へ、今次我國が大兵を以て露國と雄を滿州に競ひ、鎧袖の觸るゝところ皆悉く碎けざるはなしと雖、我が占領したる地域は、即清國の領土にして、一も露國の領土にあらず。此を以て、戰勝つも我は寸壤尺土も利する能はずして、戰敗るゝも彼は些少の領土すら喪失することなきにあらずや。

この滿州の代償は、吾人いづれの處にか求めて、以て戰勝の利益を全うせざるべからず。滿州の地は、廣袤三十六萬方哩にして、我が帝國の二倍よりも尚大なり。而して、松花

江流域は、地味の肥沃なる、物産の豐富なる、到底、露領西比利亞の企て及ぶべき所にあらざるが故に、我は少くも後貝加爾州、黑龍州、沿海州、ヤクーツク州の四つを獲て、これを滿州の代償とし、我が限りなく繁殖する人民をして移住せしめ、我が限りなく需要する農産物の倉庫とし、我が兵を置き、我が武を示して、以て滿州に侵入する露人の爲めに一大障壁を築かざるべからず

○日本移民の上陸點

之を統計に徵するに、我國人口增加の比例は、毎年七十萬に達し、未幾年ならざるに無慮一億の大數に及ばんとする形勢あり。軍事上の必要より、露國と抗するを得る勢力

を養ふべきことは言ふまでもなく、單に移民の點より見るも、我は廣大の領土を有して經濟上の發展を期待せざるべからざるに、この千載一遇の時機に際して、同胞國民の着眼が、毫も此事に想ひ到らず、かくの如きの江山を坐ら露人の占領に委して顧みざらんとするは何の心ぞ。

講和論者の中に於て而も最も軟弱なる議論を主張するは、經濟家、また實業家なるものに多きが如し。彼等、多くは沿海州の割壤をすら必要なしとして、只管、漁業權を得ば足れりと思へり。沿海州は東察加半島を包含せる世界第一の漁業地なれば、その漁業の利益だに得ば可なるに似たり。然り、漁業の利は大なれども、昆布、鱈、鱒、鮭、鰊、鮑、海參、鯨等を最多く需要するは、我が內地にあらずして、寧ろ支那なるを知

らざる可らず。

今日は鐵道運送の便利も開けず、海産物の收獲高も人の注意を惹くに足る程のことなしと雖、少しく方法を講ずれば、沿海州より毎年一億五千萬圓の利益を收むるは難からず、而してこれが需要者たるものは四億に餘りて、支那の内地にありとすれば、何ぞ鐵道を利用して、盛に水産の販路を拓き、沿海州をして世界無比の繁榮を極めしめんとは思はざる。

ウラジオストックを商港として露國に領有せしめよといふは、露國に附隨して貿易上些少の餘瀝を嘗めんがためなり。此の如くにして、今日の國際競爭場裡に立ち、優者の地位を維持せんとするも、夫豈容易なることならんや。

○西比利亞は悉是露人の侵畧地

講和論者は皆曰く、彼の黑龍江以南の地は、千八百六十年即四十五年前、イグナチーフが清國を要して割壤せしめたるものなれば、この戰勝の機會を以て我に讓らしめざるべからずと。論者が歷史を回想して、露國の横暴を咎むるは可なり。知らずや、後貝加爾州、黑龍州も亦是清國の舊領にして、二百六十年以來、次第に露人の侵掠を蒙り、後、ネルチンスク條約、愛琿條約を經て、全く露國の領有に歸するに至りたるものなることを。

豈唯是等地方のみが、獨、掠奪の手段を以て露人の領有に歸したりと謂はんや。露人が西比利亞に侵入したるは僅

に三百二十年前に過ぎず。元祿時代以前にありては、千島樺太は我が蝦夷人の住所にして、而も蝦夷人の勢力は遠く東察加に達せしなり。露國が此の東察加を掠奪したるは、實に寶永四年にして、凡二百年前に當り、これより次第に南下して千島列島の漁業地を攪亂し、後又樺太に侵入して、其領有を確實にしたるは、僅に三十年前にあらずや。

○東察加の將來（一）

夫東察加は、那威及び北米ニューフォンドランドと共に、世界三大漁業地の一にして、これを中心とせる沿海州海産の利は實に驚嘆に堪えたるものあり。而も退嬰を旨とせる講和論者は、この天與の富源を措いて顧みず、僅に黑龍江以南の地を獲て甘んぜんとするは、誠に喪心の極にして、その定見なき言語に絶せり。

彼等は沿海州の漁業權を得ば足れりとせり。知らずや、海産は無盡藏のものならずして、その繁殖には周到緻密なる保護を要し、その漁獲には一定の制限を要することを。土地の所有權を有せずして、只其の漁業權のみを有し、而して、如何なる手段を以て保護を海産に加へんとするか。

○東察加の將來（二）

海産の殲滅は尙或は忍ぶべし。東察加半島一帶に涉れる世界有數の金坑は、今日鑛業權を獲得せずして、復いづれの時に於てか其領有を期し得べき。半島一帶の金坑は、尙、

未知數に屬すと雖、その地相がクロンダイクに酷似して、又其の地脈が互に接近せる所に據れば、將來世界に比類なき金產地となるべき見込なきにあらず。

況や其の西隣のヤクーツク州は、地下悉く黃金の床を以て成れりと稱せられ、今日露國が金貨本位の貨幣制度を採るを得たるも全く是が爲めなるをや。

○東察加の將來（三）

之に加ふるに、將來、東西兩半球はベーリング海峽に架設の鐵橋を以て聯絡せられ、汽笛一聲咄嗟して交通するを得べきが故に、單に海上貿易にのみ依賴する我帝國の商工業は、世界政策に加はる機會を失ひて、如何なる悲運に沈むべきや知るべからず。この理由のみを以てしても、吾人は今の時に於て東察加の領有を確實にし、延いて沿海州全部の割壤を實行し、子孫千年の大計を定めて、大陸經營の基礎を鞏固にせざる可らず。

○沿海州割壤の究竟目的

吾人は、今の講和論者の中に於て、其最强硬なる者と雖、單に沿海州の割壤を以て滿足せんとするを見て、怪訝の情を禁ずる能はず。沿海州はオコーツク海日本海を包括して、漁業上には極めて有用なりと雖、地域頗狹隘にして、之を守るには兵略上不便甚少からず、又、この土地のみにては、我が本國と離れて獨立の經營を爲すこと能はざればなり。

吾人は信ず。沿海州を得て、その割壌の利益を全うせん。とせば、必ず此地と表裏せるヤクーツク州をも割いて、沿海州の背面を防衛せざる能はざるを。況んや、東察加の採金事業は今尚未定に屬すと雖、ヤクーツク州は世界無類の廣大なる金産地にして、その鑛業の發達は已定の事實なればなり。

論者が只僅に沿海州の割壌を以て甘んぜんとする所以は、單に漁業權の確實を得れば足れりとし、而して二十世紀の今日、尚この海上掌大の島地を基本として、武陵桃源の樂に耽らんとするにはあらざるか。果して然らば是大なる誤なり。見よ、北米合衆國は其無限の富を以て太平洋艦隊の擴張を圖り、近き將來には、四十隻の戰鬪艦、廿八隻の裝甲

巡洋艦を以て、海上權の鞏固を期せんとするにあらずや。佛國が印度支那の防備の堅實を圖らんがために、海軍擴張に汲々たるは更にも謂はず、膠州灣を根據地として山東省の南北に其の竦腕を揮はんとする所の獨逸が、一等戰鬪艦四十八隻、裝甲巡洋艦二十四隻、驅逐艦百二十隻の造艦計畫を新に立てゝ、以て太平洋上の競爭に加らんと欲するは、吾人が注意すべき所にあらずや。

海上權力の必要なるは言ふまでもなし。我が戰勝の餘威を以て新に造艦計畫を立て、以て風雲の機を待つは人後に落つべきにあらずと雖、天運必ずしも我に利ならず、單に海上權にのみ依賴して、日本帝國の繁榮を圖るは萬全の策にあらざるが故に、吾人は今日の氣運に乘じて、必ず大陸經營

の雄圖を講ぜざるを得ず。

海上貿易の時代は過ぎて、陸上貿易の時代は將に來らんとす。西比利亞鐵道は今僅に滿州を經てウラヂオストックに出でたりと雖、その本線が黑龍江の流域を下つて、沿海州の沿岸を駛り、東察加半島を横斷して、更にベーリング海峽を越え、南北亞米利加を縱貫する大鐵道と聯接して、こゝに東西貿易の覇權を握らんとする時代の來るは、遠き將來にあらざるべし。

この形勢に鑑みても大陸建國の壯圖を立つるは避く可らざる所にして、而も、今日は列國が太平洋に有する勢力は未だ振はず、露國の内憂外患は方に殆ど絶頂に達し、英米は我が興國なり、獨佛はモロッコ事件を以て相叶はざる狀況なれば、我が帝國は步武堂々、正義を履んで毫も懼れず、戰勝國の權利を以て、露國に命ずるに東部西比利亞の割壤を以てし、之を以て我が大陸經營の一大根據地とせざる可らず。

○黑龍江流域の割壤

講和論者或は曰く、我は沿海州割壤の外、また黑龍江の通航權を得ざるべからずと。夫、黑龍江の流域は、即ち、沿海州、黑龍州、後貝加爾州の三州にして、黑龍總督管區に屬し、ムラビヨフとイグナチーフとが、支那を威嚇して、割壤せしめたる所に係れり。この三州は、滿州防衛線の前哨にして、日本海とオコーツク海との障壁なれば、我が帝國は國家自衛の上より觀ても、滿州掩護の上より觀ても、これを我國に割取

し、て、防、備、を、修、め、ざ、る、可、ら、ず。然らずんば朞年ならずして、露國は再び滿州の境上に寇し、我が帝國をして、出師の勞を執らざる能はざらしむるは、斷乎、疑の無きところなり。

瞶々者流、敢て或は之を察せず、我は滿州に守備兵を駐め、て、露、國、の、侵、掠、に、備、へ、ん、といひ、若くは露國をして滿州に對し、將、來、一、切、の、發、言、權、を、放、棄、せ、し、む、れ、ば、可、なりと言へども、滿州は我が帝國の領土にあらずして、即、清國の領土なり。かくの如き地域に對し、將來限りなく大兵を駐めて、我が國力を消耗し、假令失ふ所はありとも毫も得る所なき戰を期するは、策の得たるものなるか。吾人が百戰百勝の今日に於て、而も滿州の占領地を自由に處分するを得ざるは、第三國の領土なるが爲めならずや。此の如き不便を忍ぶは、一

時或は餘儀なしとせむ。尙、這般の事態にありて、將來限りなく苦痛を忍ぶは、耐ふべき所にあらざるなり。

此に於て、吾人は反覆して之を謂はん。極、東、平、和、の、保、障、を、得、滿、州、を、し、て、兵、馬、の、巷、た、ら、し、む、る、こ、と、を、避、け、ん、と、せ、ば、少、く、と、も、黑、龍、總、督、管、區、を、割、て、先、我、が、帝、國、の、領、土、と、せ、よ、黑龍江通航權の如きは、之を得るとも滿州の背面防禦には毫も益なく、之を失ふとも多くの影響はあらざるべしと。黑龍江の必要を念はゞ、何ぞ其流域の割壤を求めざる。其流域は、他日西比利亞鐵道の本線の通ずべき所にして、東西交通の要路に當り、而して滿州の防衛には缺くべからざる一大要衝にはあらざるか。

○滿州の背面防備

講和論者は皆曰く、今日の戰局に於て沿海州及樺太以外の割壤を求むるは決して正當なるものにあらず、我が兵力の加はる所は、尙未滿州地方の南部に止まり、帝國の軍事行動は少しも露國の領域に及びたる所あらざればなりと。果して然るか。然らば論者は何故に講和の時期にあらざることを主張せずして、講和の條件を議することの、斯くも周到にして煩瑣なる。實際に於て占領したる所にあらざれば、割壤せしむる能はずといはゞ、何故實際占領の時に至るまで講和談判に應ずべからずと論ぜずして、嘵々として、講和の條件を議せんとするか。

吾人は滿州の爲に戰ひたるにあらずして、東洋平和の保障を得んがために戰ひたるにはあらざるか。而して、滿州背面の防禦の策を講ぜずして、速く戰局を收むるが如きことあらば、數年ならずして復再び露國と爭はざるを得ずして、東洋の平和は攪亂せられ、延いて世界の大亂を惹起すべきは明ならずや。

○講和論者の軟派と硬派

吾人は、論者が何故に、この東洋永遠の平和の保障を確立せずして、無謀の講和を爲さんとするを深く疑ひ、而して、その疑ひを解き得たるを悲まずんばあらざるなり。看よ、今日の機會に於て何等經綸の策も立てずして兵を旋さんと

する講和論者は、この開戰の際に於ては、何等對抗の意氣精神をも有せずして、露國の行爲を傍觀したる非戰論者なりしことを。

非戰論者にして、今日、秦檜一流の講和論者と化し去るは、寧、當然の結果にして、毫も怪むことを須ひず。獨怪む、旭日冲天の勢ある我帝國の今日に際して、姑息軟弱の和議を唱ふる人士の少なからざるを。百萬の貔貅は外に在つて、善謀善戰、皆悉く岳飛ならざるものなきに、内に在つて軍國の事を議せんとするものは、皆悉く秦檜なり。此の如くにして、戰勝の餘榮を全うせんと欲す、亦極めて難いかな。

○是軍人を辱しむるの言

傳へ聞く、彼等が恐るゝ所のものは、在外の將校士卒が、すでに征戰の事に倦みて歸心矢の如きものあるが爲なりと。開戰以來、一年有半の歲月を閲せり。顧れば、老親家に在り、妻子閭に倚つて、夫婿凱旋の日を待つこと切なり。朔北塞外の地にあつて、半夜胡馬の嘶くを聞き、銃を枕にして、夢に家鄕の事を憶へば、歸思切ならざらんとするも得べからず。斯かる事情の下にありて永く戰爭を繼續するは、策の得たるものならざるが故に、速く戰局を收拾して、戰勝の光榮を全うせんとする内議ありと。嗟呼是何等の饒舌ぞや。此の如きは、我が忠勇なる軍人の精神氣慨を論ずるに、露人と同一の觀を以てするものなり。我が義烈なる軍人を誣ふるに、一身の利害の外、眼中君主なく國家なきハイカラ一流

の徒とするものなり。知らずや、我が海陸の將校士卒は、一人として　大元帥陛下の御心を以て其心とせざるはなく、國家千年の大計を思ひ、家を捨て、又身を棄てゝ、君國の爲に盡さんとするにあらざるはなきことを。『海ゆかば水つく屍、山ゆかば草むす屍』。我軍人が國を出でたるは、生きんが爲にあらずして、死なんが爲なりしことを知らざるか。我が軍人は、決して身を惜み家を思ふものならずして、日夜君國の事をのみ惟念へり。彼等は毫も命を惜まず、只此の如くにして立てたる武功が、一朝外交の爲めに抹殺せられて、犬死とならざらんことをのみ惟念へり。嗟呼此の如くにして、屍を滿州の野に曝したるもの、將に十萬に垂んとす。而も其戰功が一朝にして幾多の講和論者のため、秦檜一流の論者のため、卑屈軟弱なる政客のために抹殺せらるゝの時や來れり。慷慨せざらんとするも得べんや。

○大統領の好意か惡意か

傳へ聞く、又彼等が恐るゝ所は、列國の同情を失ふにありて、土地の要求が、北米合衆國大統領の好意を傷け、延いて世界列國の非難を招くに至らんとする嫌なきにあらず。此に於て、謙讓以て事に從ひ、世界の盛なる同情を得て、和を講ぜんとするものなりと。吾人は信ず、大統領ローズベルトが講和媒介の勞を取れるは、即、日露の勝敗がすでに決定して動かす可らざるを知りたるが爲にて、尙、此上に如何程交戰を繼續するとも、露國に勝利の希望なきを確認するを得

たればなり。斯くては空しく兩國の兵を損ずるのみにして、世界の文明に益する所なきが故に、勝敗すでに決せりとして、講和の媒介をなしたるのみ。帝國が其の勸誘に應じたるも、これが爲めなり。故に曰く、露國との平和は其確實を充分に保障するに足るべき條件の下に之を復立せんことを望むと。この平和の確なる保障は、即、滿州の背面防禦の完成にあらざるべからず。然るに帝國が、其希望を遂げんが爲に、土地を露國に要求すれば、大統領ローズベルト之を喜ばずして、列國の向背、亦豫め知るを得べからずと謂はば、大統領の好意なるものは、頗る殘酷を極むるものなり。

若又、日露戰局の勝敗は今日に於て知るべからず、故に相互兩國の疲弊せざるに先ちて、講和を勸誘したりとせば、そ

の斷定は事實に反したるものなるが故に、我は宜しく大統領の好意を謝するのみに止まり、軍事行動を繼續して、其目的を達する處まで進むべきのみ。然るに、之をすら喜ばず、強いて其意を遂げんとせば、是講和の媒介にあらずして、即、一種の干渉のみ。開戰以來、我國に滿腔の同情を表し、今に至るまで曾て渝らざる米國にして、豈此の如き背理不信の事あるべけんや。況んや、英國がローズベルトの商議を受くるや、講和條件は日露兩國をして直接に會商決定せしむべく、毫も外間の干渉を許すべからずといへる條件を附して、之に應じたるものなるをや。然り講和條件は、他國の容喙を許すべからず。帝國は疑心暗鬼を要せずして、其求めんと欲する所を求むべきのみ。土地の割取、決して不可な

し、後貝加爾州、黑龍州、沿海州の割壤も可なり、東洋平和の保障として、尙イルクーツク州の割取をも必要とするならば、之を要求する、最も可なり。米國の同情の向背は、是、秦檜一流の論者の疑心暗鬼のみ。彼の尨大なる露國の領地と、その累代侵掠の殘忍酷薄なる歷史を見よ。露國の存在は、直に世界の禍を意味し、列國に對する脅威を意味す。英米諸國を初として、世界列國が我國に無限の同情を寄せたるは、眇たる海島の小國を以て、この尨大なる怪物に痛棒を喫せしむるを得たるが故のみ。勝利覺束なしと思はれたる帝國が、起つて一擊を加ふるや、世界無双の强國と人も許し自も誇りたる露國をして崩潰せしむるを得たるが故のみ。極東のダビデは、果して西歐のゴリアテを倒せり。是即列

國が多大の興味を以て、日露の戰局に對せる所以なり。何者の痴漢ぞ、敢て我國に猜忌を挿み、我が戰勝の獲物を横奪して、恨を結ばんと思ふ者あらんや。

○往いてローズベルトに告げよ

講和論者は皆曰く、後貝加爾州を我に收めて防備を修むるは不可なりとせず、黑龍州を我に割いて領土とするは、誠に快事なりとせむ。されど、軍事行動を以て占領せざる地域を割いて之を領有することは、講和の先例に無き所なりと。果して然るか、然らば樺太沿海州は、未だ我軍の占領に歸せざるが故に、之を割壤すること能はざる筈なるに、論者が概ね其割地を主張して憚らざるは何の故ぞ。

假に軍事行動を以て占領せざる所の敵地を割取せしむる例なしとせば、我はローズベルトに告ぐるに、講和の機會未到らざる所以を以てし、兵を進めて浦鹽を圍み、又ハルピンを攻略し、一瀉千里、直に齊々哈爾より愛琿に出で、黑龍江を横斷せば、黑龍州軍務知事の駐在地たるブラゴウエシチェンスクの陷落は、一擧手一投足の勞にも過ぎざるにはあらざるか。

又、齊々哈爾より西に轉じて、興安嶺を越ゆれば、後貝加爾州軍務知事の駐在地たるチタは目睫の間にありて、風を望んで降るべく、長驅直に西に向ひ、バイカル湖上を横斷すれば、イルクーツク縣知事の駐在地たるイルクーツク、エニセイ縣知事の駐在地たるクラノヤルスクは、戈を倒にして、我が皇軍を迎ふべく、是より以西、只トムスク、オムスク、ペトロパウロフスクの在るありて、ウラル山上に旭旗を立つるは、左迄の勞苦にはあらざるべきなり。

(附言)尙、東清鐵道線及び西比利亞鐵道線中の著名なる宿驛と距離とを示して、軍隊行進の徑路を示さん。

ウラジヲストク	ハルビン	四百二十五マイル	六百八十八露里
ハルビン	シビリ間	六百三十六マイル	九百五十四露里
シビリ	カルイムスカヤ間	二百十七マイル	三百二十六露里
カルイムスカヤ	ムイソフスク間	五百三十七マイル	八百六露里
ムイソフスク	イルクーツク間	百九十六マイル	二百九十二露里
イルクーツク	ヲビ間	一千百四十マイル	一千七百十七露里
ヲビ	チェリヤビンスク間	八百九十マイル	一千三百三十二露里

シビリは東清鐵道と西比利亞鐵道との接續する所にして、露清國境の停

車場。カルイムスカヤは直にチタに近接す。ムイソフスクはバルカル廻岸線の起點にして、又、バルカル湖の渡場なり。ヲビはトムスクに近く、チェリヤビンスクは即ウラルの山麓にあり。

第三章　日本の世界政策

列國をして道德的に統合せしめ、以て露國の武力的統一に對抗するは日本の世界政策ならざる可らざることを論ず。

黑龍總督管區たる後貝加爾州、黑龍州、沿海州の割壤は、以て滿州の背面防禦の地となすに足れり。然れども、只この三州を占領したるのみにては、我が開戰の目的を達する能はずして、東洋の平和は露國の爲に脅威せらるゝを免れざるべく、隨て亦世界の平和も攪亂せらるゝものなることを知らざるべからず。

夫露國が世界に對する武力的統一の大策を抱けるは、その由來するところ極めて久し。スラブ民族が酋長リューリックを推して國王としたる時は、微々たる小國に過ぎざり

しが、三百餘年前ペートル帝が出でゝ四方を攻掠するや、南、黑海の濱に突出して、二たび土耳其と戰を交へ、西、バルチック海岸を侵掠しては、數回瑞典と相鬩ぎ、後、フィンランド、ポーランド等を併呑して、更に土耳其を奪はんとし、虎視眈々として、機會を窺ひ、爪牙を磨きて起ちたること、凡幾回といふことを知らず。彼はバルカン半島を襲ふて、コンスタンチノープルを新都とせんとし、これに據つて歐亞弗の三大洲に號令せんと欲すと雖、尙其時機を得ざるが故に、中央亞細亞を經畧し、東は蒙古西藏を掠め、南はアフガン、ヘルシャを侵して、印度を覆さんとすれども、今尙英國が全力を揮つて之を防遏するが故に、其の志を遂ぐるを得ず。然るに、極東の方面は、我が日本の勢力未だ鞏固ならず、朝鮮、滿州の防備極めて薄弱にして、英米諸國の利害關係錯綜せざる時なるが故にこれより支那に侵入して世界人口三分の一を脚下に蹈まへ、その勢力の加はるを待つて、印度を奪ひ、土耳其を襲ひ、墺利地匈牙利を席捲して、以て、世界統一の事業を遂げんと企てたり。

○露國の侵畧、武力的世界統一

列國存亡の危機は此の如くにして、將に其端を發せんとす。然るに、佛國は露國に對して同盟の誼を思ふが故に、假令極東侵略の運動に加はらざるまでも、勢、反抗の聲を揚ぐ可くもあらず。獨逸は、墺地利匈牙利と以太利とを聯ねて、三國同盟を結び、以て露佛の同盟に對すと雖、自國防備の薄

弱を憂ふるが故に、輕々動く可くもあらず。又、米國は極東貿易の消長に利害關係を有すと雖、特殊の地位に立つが故に、假令我國に同情を寄すること深しと雖、兵力に訴へて迄も、露の滿州經略に容喙すべき理由を有せず。さらば英國の意向は如何。唇亡びて齒寒しといふ譬もあれば、其盟邦たる我國の危急を憂へざるにはあらず、露國が支那を侵略する結果を思はざるにあらずと雖、印度境上の防備に急にして、滿州問題に干渉するの餘力を存せざるを奈何せん。

此に於て、帝國は深く世界の形勢に顧み、露國の侵略に對抗して、其非望を粉齏するは、獨我國の自衛と清國の保全とに必要なるのみならずして、世界の平和を擁護するに缺くべからざる道なりとし、敢然として、露國膺懲の師を起せるなり。

吾人は今の時に於て、露國討伐の目的が、獨自國の爲めのみならず、又清國の爲めのみならずして、實は世界の爲めなることを念はざる可らず。

帝國にして露國の横暴を懲さゞれば、滿州は終に清國の有ならず。清國にして露國の兵力に屈すれば、列國勢力の平衡は破れて、世界は終に露國の爲めに統一せらるべきものなることを知らざる可らず。

この統一は、即武力的統一なり。侵略の結果なり。平和の破壞なり。人道の蹂躪なり。進歩の停止なり。文明の滅亡なり。野蠻の勝利なり。惡魔の跋扈なることを知らざる可らず。

コサック騎兵の到る處、暗黑輙ち之に伴ひ、碧血忽ち之に從ふ。正義なく、仁愛なし。又何の個人の自由かあらん。個人の自由は國法に據つて保護せられざるべからざるに、一たび露國の配下に立てば、何等の罪もなき良民が、忽ち牢獄に投ぜられ、未だ一回の審問も經ずして、遠くシベリヤに流竄せらる。フィンランド人は此の如くにして不法に泣き、ポーランド人は此の如くにして殘暴に苦むや、玆に久し。而して、猶太人の如きは、單に異教徒といふ理由の爲めに、老少を問はず、男女を論ぜず、皆悉く露人の爲めに虐殺せられ、露國の兵士と良民とが力を合せて、キシネフ市中の猶太人を屠り盡したる事あるを思へば、スラブ民族に統一せられんとする世界の前途も復た禍なるかな。

○討露の目的、道德的世界聯盟

世界の統一は、避く可らざる趨勢なり。列國が各々障壁を高うして、相異なる法律を立て、相異なる宗教を奉じ、相異なる言語を用ひ、相異なる風習に依つて、互に敵視し、度量衡貨等の如きものに至るまで相異なる制度を頑守して讓らざるは、決して文明を催進すべき所以にあらず、學術技藝の進歩を圖り、農工商業を發達せしめて、以て民人の慶福を全うすべき所以にあらざるや明なり。此に於てか、列國の利害を調和し、四海兄弟の實を擧ぐるは、吾人が勉むべき道なりと雖、世界の統一は武力を以てすべきにあらずして、道德を以てすべきものなることを知らざるべからず。夫道德は、民人の慶福を全うすべき所以の基礎なり。法律も之に

據つて立てざるべからず、兵馬も之に據て用ひざるべからず。我が　天神天祖が統を垂れて、國を肇め、教を宣し、法を設くるは、一に道德に基かざるなく、日本歷史は是れ宛然たる道德の經典なり。

又、道德は列國の利害を調和すべき所以の基礎なり。樽俎も之れに據つて行はれざるべからず、干戈も之れに據つて動かさゞるべからず。我が　列祖烈聖が大陸經營の端緒を啓き、素盞嗚尊は植林農桑の業を弘め、少彦名命は工藝醫學の道を施し、崇神天皇及び　神功皇后以後に、任那、百濟、新羅、高麗を綏撫して、皇朝の威德を仰がしむるに、侵略の方法に據り給はず、孤弱を扶け、强暴を挫き、韓土の諸國をして皆各〻立つところあらしめたるは、如何なる聖意に出でしとするか。

○人道の扶植、平和の保障、文明の擁護

帝國は列國をして互に調和せしめながら、相協同して進歩を圖らしめざるべからず。互に讓歩せしめながら、又各〻立つところあらしめざるべからず。是即、文明を催進せしむる道にして、平和を擁護する所以なり。

世界の統一は、此の如くにして行はる。而して列國を促して、この世界的一大家族の伍伴に就かしめ、地勢の變る所に從ひ、氣候の異る所に從ひ、物產の異る所に從ひ、人種の異る所に從ひ、其の特能を發達せしめ、其の長技を發揮せしめて、世界の文明に寄與する所あらしむるは、我が帝國が進ん

で自當るべき一大天職にはあらざるか。列國の爲に斡旋して、宗教、法律、兵備、經濟、學術、技藝の一致を圖り、これを貫く人道を以てして、世界平和の保障を立て、もし、此の平和を脅かし、此の人道を攪亂せんとする者あらば、天に代つて之を罰し、天下民人をして、安んじて、文明の化に浴せしむ。是豈　天神天祖以來、　列祖列聖の吾人に命ずる所にして、これを外にして、帝國が世界に盡す職責は一も存せざるにあらずや。

この統一は、即、道德的統一なり。協同の結果なり。平和の保障なり。人道の扶植なり。進歩の刺戟なり。文明の發展なり。天使の凱歌なり。歐米人が所謂神の王國の顯現なることを知らざる可らず。

○日本帝國の一大天職

吾人日本民族は、この一大天職の存する所を自覺して、露國の征戰に從事せり。吾人が自國の爲めのみならず、又清國の爲めのみならず、世界の爲めに露國を討伐したることは、五千萬人の皆知る所。若夫れ、この天職の存することを知らざる者ありとせば、そは只一部少數の講和論者のみ、子孫百年の大計を知らざる一部の非戰論者のみ。五千萬人皆必ずしも個人の私利を圖らんがために、國家の公利を犧牲に供する者のみにあらず。すでに、國家の公利を先にし、又我が祖先傳來の國是を遂行せんが爲に、この義戰を戰へり。只此の精神のあればこそ、奉天會戰に偉功を收め、日本海上、光前燿後の大勝の奇功を奏するを得たるなれ。

○戰勝の原因、天祐、神助、人力

マハン大佐は謂はざりしか。東郷大將は、恐らく水雷驅逐艦、水雷艇、沈設水雷等を以て、敵艦隊の大半を破壞し、然る後に、主力を以て、決戰の途に出づるの外なからんと。然るに、東郷大將は敢て必しも大佐の所見に從はず、主力を以て堂々敵の艦隊に當り、戰鬪艦の數に於ては我に倍せる敵を破りて全く覆滅せしめたり。

東郷大將は思はざりしか。敵は對馬海峽を指し、强行通過を試みて、我が艦隊を牽制すべきも、別に快速なる巡洋艦隊運送船等をして津輕海峽宗谷海峽に突進せしめ、匆忙の間、必ずや我が艦隊の耳目を避けてウラジヲ遁入の機會を求めんとすべければ、我亦敵の謀の裏をかいて、一網打盡の手段に出づる必要はなきかと。されど艦隊の力を分つは、我が戰略上極めて不利なり。此に於てか、憂心忡々、縱横の機略を旋らすに際し、大命も亦聯合艦隊司令長官の策する所を可なりとし給ふ。東郷大將は故に曰く、日本海の大勝は一に　陛下の聖斷によると。陛下英明能く祖宗の宏謨を奉じて軍國の大事を總攬し給ふ。優詔、以て聯合艦隊司令長官の功勞を嘉し、『朕は汝等の忠烈により祖宗の神靈に對ふるを得るを懌ぶ』と宣へるは、豈其の深意なしとせんや。

天祐と神助と人力と兼ね至つて、玆に初めて日本海の大勝を奏することを得たり。抑々天は何故に我が帝國に、殊恩を垂れて、光前燿後の大勝の結果を收めしめたるか。

この神意を知らんと欲せば、先づ我が日本帝國の世界に於ける道德的任務を念はざるべからず。この千載一遇の時運に會し、心あるものは、奮起して、以て政黨を激勵し、又實業家を戒飾し、當局の人をして、我が國民の志望を知らしめ、樽俎折衝の功をして國家百年の大策に貢獻せしめずんばあらざるなり。

第四章　世界平和の保障

露國討伐の一大義戰は、獨り極東の平和を維持するに止らず、又世界の平和を確保するを目的とす。帝國は此の目的を遂げんがために、東部西比利亞を割壤せしめて、露國と對抗の力を養ひ、西部西比利亞を中立せしめて、日露の緩衝地となさざる可らざることを切論す。

夫日本帝國の一大天職は、世界の平和の擁護にあり。吾人國民が露國の討伐に從事するは、敢て必しも滿州問題の解決のみにあらずして、世界政策の決行にあり。

然らば、日本國民の世界政策とは何か。即、平和の關係に於て、世界の經濟の發達を圖り、農工商業の進歩を圖り、學術技藝の改善を圖り、政治宗教の一致を圖り、兵備の擴張を制

限し、民人の慶福を進めんが爲に、我が帝國が首班に立ち、列國をして協同作業を執らしむること是なり。

吾人の政策は、固是道德を基礎として、世界の統一を圖らんとするもの、然るに露國の爲す所は、吾人と悉く目的を異にし、手段を異にし、武力を以て世界を併呑せんと期す。ペートル帝以來露國の政策は、此の如くにして吾人の政策と反對し、而して今や露國の世界政策は、我が帝國の存立をすら危うせんとしたるが故に、滿州問題を提起して、茲に一大衝突を起し、尙、蒙古、伊犂、西藏等防備の必要は、已むを得ず、我が國民の力を藉りて、露國の世界政策に一大打擊を加へんとするなり。

○世界政策と天訓皇謨

吾人の世界政策は、すでに建國の初に於て確立せり。我が祖先等が　皇大神を祭るの祝詞に『神明の照臨するところ、窮天極地、狹き者は廣からしめ、險しき者は平ならしめ、遠き者は八十綱を以て之を牽くが如くす』といへるは、是皆仁愛を世界に及ぼし、列國をして其惠に與らしめんとの意を述べたるにあらざるはなし。神武天皇が皇化を宇內に及ぼして、『六合を兼ね八紘を掩はん』と宣へるは、道德的に天が下知ろしめさんとの聖意に外ならざりしにあらずや。

祖先の志したる所此の如く、子孫後昆の爲さゞる可らざる所此の如し。この大業は今日に於て完成し得べきもの

ならず、宜しく將來百年の歲月を積んで經營すべきものなりと雖も、吾人日本國民と主義目的を異にせる一大强國のあるありて、歐亞二洲に蹈屈し、我等が子孫後昆に殆ど不可抗の壓迫を加へ、機を見て帝國の存立を覆さんとする以上は、今に於て、須らく露國を破摧し得る勢力を作り、我が國民は將來世界人類のために露國の暴行を監視して、牽制の任務を執ると共に、又一方には平和を保障し、人道を扶植せざるべからず。

○日露國力の懸隔、同胞國民の責任

吾人は、この二重の責任を負荷せり。此に於て、露國現在の勢力を削弱し、又我が帝國の勢域を擴め、少くも其平衡を維持する用意なかるべからず。

試に見よ。露國は世界の雄邦と自誇稱する國にして、其廣袤八百八十萬方哩に渉り、我が帝國に比較して五十八倍の領土を保ち、其人口は一億三千萬ありて我が帝國に三倍し、歲出は二十億にして我が帝國に七倍し、これを如何なる點より見るも、我が國力に優れるにあらずや。

然るに、この露國と對抗して、人道扶植の大業を行はんとする我が帝國の陸軍は平時十七萬を養ふに過ぎずして、露國の六分の一にも及ばず、開戰以前の海軍は二十五萬噸にして、露國の二分の一を超えず、輸出入額は五億五千萬圓にして、約三分の一に止まり、鐵道は四千二百哩にして露國の九分の一を出でざるにあらずや。

國力の懸隔、夫れ此の如し。これを如何ぞ、敵國と相對抗して、その暴行を制するを得んや。謂ふを休めよ、露國の海軍は全く我が爲に擊破せられて、その餘力を殘さずと。而も、露國は米國の鋼鐵トラストの力を借りて、バルト海岸に造船場を新設し、數年を期して一大海軍を再興せんとするにあらずや。陸軍の敗れたる、又シベリヤ鐵道の輸送力に缺くる所あるが故に歐露の精兵を戰場に招來すること能はざりしが爲なりき。理由は此の如く簡單なり。而も海上の權力は終に恢復の期なしと謂ふか。西比利亞鐵道の複線工事は假令幾年を費すとも完成すべからずと謂ふを得るか。

吾人は露國の敗軍を見て、帝國の爲に相慶せざるを得ず

と雖、餘りに戰勝の餘榮に醉ふて、敵を侮ること能はず。試に、彼我地を易へて戰へりと見よ。我は一萬露里(ヴエルスト)の遠隔にある歐露の西端に五十餘萬の陸軍を送り、遠く亞弗利加の南端を迂廻して、ロジェストウェンスキーが爲したる如く大艦隊を歐洲に送り、バルト海に闖入して、容易に敵を破るを得るか。

精錬無比の我が陸海軍は、輙ち、之を能くすべし。これが背後にある國民は、彼の露國の爲したる如く、開戰以來五十億圓の軍費を供、して、兵力を支持し得たりと思ふか。

○講和條件の二大眼目

この恐るべき大國は、戰後國力を恢復し來りて、我が面前

に立たんとす。吾人は何を苦んでか、敵と姑息の講和をなし、彼が創痍の癒ゆるを待ち、好んで必敗の地位に立ちて、再び戰ふの要あらんや。

此に於て、吾人は外交當事者に告げ、切に國民に告げんと欲す。講和條件に於て、世界の平和を維持するに足る保障を確立するを得ば、敵の降伏を許すも可なり、然らずんば外交談判を不調とし、飽くまで兵馬の力を以て、我が要求を貫徹せよと。黑龍總督管區の三州、乃至ヤクーツク州の割壤は、只滿洲と韓國との背面防禦に資せんが爲めのみ。滿韓地方を守るを得ば、極東に於ける一部の平和、或は期すべし。されど、露人は之が爲めに容易に退くものにあらず。彼等は、滿州に失へる所は、必ず之を蒙古に得て、支那侵入の路を

開かんと勉むべし。而して、支那の崩壞は世界變亂の端緒なれば、勢此處に至つては、我は滿州を擁すと雖、長鞭馬腹に及ばずして、吾人の世界政策も施す道なきに至るべし。

此に於て、吾人は講和條件として露國に求め、もし聽かずんば實力を以て强行せんと期する所の二大要求を擧げざるを得ず。

第一　東部西比利亞の割取。

第二　西部西比利亞と中央亞細亞との中立。

求むる所は只是のみ。何の暇ありてか、又、沿海州の區域を喋々し、黑龍江通航權の許否を喃々するを要せん。

若夫、韓國に對する帝國の宗主權、滿州に對する我が暫時の統治權はすでに確定して動かすべからざることは、列國

の皆認むる所、隨て他の細目は一々縷指するを待たずして、適宜解決せらるべく、償金五十億の要求の如き、樺太割壤の如き問題は、前に說きたれば再說せず。

殊に、黑龍江流域の三州とレナ流域のヤクーツク州とは、滿韓地方の防衞に缺くべからざる要衝なれば、東洋平和の保障として、これを帝國の領土とすべきは勿論なれども、これのみにては、我が帝國をして大陸に重きをなさしめ、隨つて、露國を制壓するに足らざるが故に、エニセイ河の流域を、も之を帝國の領土として、彼此國力の平衡を求め、オビ河の流域及中央亞細亞を露國より割き、こゝに中立地帶を設けて、日露衝突の機會を永遠に失はしめ、その中立地帶をば列國の前に解放して、經濟上の利益を共にせんとするなり。

○西比利亞割取の難易

只、吾人が國民の爲に憂ふる所は西比利亞割取の困難なる事にあらずして、只、管、割取の困難を念ひて逡巡躊躇すること是なり。

西比利亞の地、廣さ、歐州大陸に、一倍半して、我が帝國に、三十三倍の面積を有す。只地圖に據つて之を見れば、兵力を以て割取することは容易にあらざるが如くなれども、殆全く無人の地にして、僅に八百餘萬の民が所々に貧寒の部落をなして散在し、その部落も多くはシベリヤ鐵道の沿線にあるものなれば、我が軍隊は、只單に鐵道に據つて西に進み、チタ、イルクーツク、クラスノヤルスクを占領すれば、東部西

比利亞の割取を遂行するを得べく、トムスク、ペトロパウロフスクを占領すれば、西部西比利亞を割取して此處に中立地を設くるは只我が意の如くなるべきのみ。

○西比利亞の廣袤、人口の疎密

西比利亞の地、廣袤五百四十萬方哩にして陸地の九分の一に涉れり。この廣大無邊の地域を占領するは至難の業に似たりと雖、今尚未墾の土地多く、その人口の稀薄なること實に驚くべきものあり。

西部西比利亞	黑龍督管區總	樺太島	二、九〇〇〇方哩	二、八〇〇〇人	毎方哩一・〇人
		沿海州	七一、六〇〇〇方哩	二二、〇〇〇〇人	毎方哩〇・三人
		黑龍州	一七、三〇〇〇方哩	一二、〇〇〇〇人	毎方哩〇・七人
		後貝加爾州	二三、七〇〇〇方哩	六六、四〇〇〇人	毎方哩三・〇人
西部西比利亞	獨立諸縣	トムスク縣	三三、〇〇〇〇方哩	一九三、〇〇〇〇人	毎方哩六・〇人
		トボルスク縣	五四、〇〇〇〇方哩	一四四、〇〇〇〇人	毎方哩三・〇人
	曠原管區	セミレチエンスク州	一五、二〇〇〇方哩	九九、〇〇〇〇人	毎方哩七・〇人
		セミパラチンスク州	一八、四〇〇〇方哩	六八、五〇〇〇人	毎方哩四・〇人
		アクモリンクス州	二三、〇〇〇〇方哩	六八、〇〇〇〇人	毎方哩三・〇人
西比利亞	イルクーツク總督管區	ヤクーツク州	一五三、三〇〇〇方哩	二六、〇〇〇〇人	毎方哩〇・二人
		イルクーツク縣	二八、七〇〇〇方哩	五〇、〇〇〇〇人	毎方哩二・〇人
		エニセイスク縣	九八、七〇〇〇方哩	五六、〇〇〇〇人	毎方哩〇・五人

見よ人口稠密なる地方すら一方哩内に六七人、沿海州の如きものは僅に零・三人に過ぎざるにあらずや。之を我國が一方哩内に三百十二人を算するに比すれば實に宵壤の差ありと謂ふべく、而も地域の廣大なる、黑龍州のみにても我が面積に超ゆること一萬三千方哩に達し、ヤクーツク州

の如きものは殆ど帝國に十倍せり。

○西比利亞の富源、物産の價額

請ふヤクーツク州を誤り認めて、單に冱寒不毛なる荒野と思ふこと勿れ。彼のレナ河の流域は、世界に類なき金産地にして、その金田の豊富なる、一千キログラムの砂土の中に、六グラムの純金を含み、地下悉く黄金なりと謂ふに至つては、前途の繁榮實に刮目して看るべきものあり。

後貝加爾州、黑龍州、亦極めて金坑に富み、この二州の産額を合すれば、ヤクーツク州に頡抗することを得べきことは、吾人の注意に値すべき事實なり。

ヤクーツク州	産額五六〇プード	金坑九十箇所	鑛夫七千四百人
後貝加爾州	同二五〇プード	同百三十二箇所	同三千二百人
黑龍州	同三七〇プード	同百七十七箇所	同九千三百人
沿海州	同一五〇プード	同二十箇所	同二千四百人
エニセイ縣	同二〇〇プード	同三百箇所	同九千人
トムスク縣	同一四〇プード	同百三十箇所	同四千六百人
セミパラチンスク州	同三〇プード	同百四十四箇所	同？

（附言）一プードは四貫三百六十匁。チタ、テルチンスク、ブラゴツエシチエンスク等の繁盛なるは、附近に金坑の存するに因る。

獨り黄金のみならず、鐵、石炭は、エニセイ縣、イルクーツク縣、後貝加爾州、トムスク縣等、到る處として産せざるなく、以て大に鐵工業を起すべく、又、我國の製鐵事業を發達せしむるの助となすべし。英國が覇を歐洲に唱ふるを得たるは、鐵と石炭とに據りてなりき。北米合衆國の繁榮が今や英國を壓倒して、世界に雄飛するを得たるは、亦是鐵と石炭と

に據る。物質的文明の西漸は爭ふ可らざる事實なり。而して鐵と石炭とは、常に文明の勃興を助けて、離る可らざるものなるを念へば、北米合衆國に代りて世界の覇權を握るべきは、この西比利亞にあらずして何ぞ。

況して西比利亞は開拓日尚淺くして、産業の方法亦極めて幼稚なれども、今日すでに一億百四十萬ルーブルの農産物と、四億二千萬ルーブルの家畜と、二千九百萬ルーブルの鑛物とを産し、工業も亦漸く發達の氣運に向ひて、年額六千萬ルーブルの製造品を出すに至りたるに於てをや。我が國民が西比利亞を冱寒不毛の地なりとし、之が得喪を以て痛痒を感ぜざるは甚だ非なり。其の富源は無盡藏にして、海外より流入する移民は年々二十萬人を超越し、すでに年額六億ルーブルの生産物を出すに至れるは、豈帝國臣民の考慮を要すべき事實にあらずや。

○露國の將來、日本の窘迫、兵馬の効力

今日にありてすら、此の如し。而して、この廣野が漸次開拓に就きて、露國が富裕を米國と競ふの時代來るあらば、我が國民は如何にして、その征服を免れて、世界に存在するを得べきや。

見よ吾人は樺太に於て、漁業の自由をすら許されず、嘗てダルニーに於て土地拂下の事あるや、歐米人及び支那人にのみ之を限り、日本人には入札をすら許されざりしにはあらざるか。吾人は外交當事者が、當時如何なる抗議をなし

て如何なる成功を得たるを知らず。然るに一たび開戰となるや、幾千萬圓の財を糜したるダルニーは、無代價を以て我が手に歸し、幾億の費用を抛ちたる旅順口は、その根柢より覆されて我が領有に委したるにあらずや。この難攻不落を誇りし世界無双の要塞を覆したるものは誰ぞ。一兵一卒の力と雖も、これを合すれば、この驚くべき偉業をなしたり。軍事なるかな、軍事なるかな。吾人は今更軍隊の力の雄偉なるに感じ、軍隊の後援なくしては、外交も以て其の手腕を揮ふに足らず、道德も以て其の光を輝かすに足らざるを念へば、我が軍隊が善謀善戰露國を擊つて其の慾望を全く破摧し盡すと共に、これを滿州以西に驅逐し、之をバイカル湖以西に驅逐し、之をウラル山以西に驅逐するの日を

待ち、東部西比利亞を我が手に收め、西部西比利亞を解放して、列國の民を招徠し、世界と共に其の繁榮を圖らずんばあらざるなり。

○東部西比利亞割壤の必要（一）

沿海州、黑龍州、後貝加爾州は、黑龍總督管區に屬し、イルクーツク州、ヤクーツク縣、エニセイスク縣は、イルクーツク總督管區に屬し、合して東部西比利亞と稱す。

吾人は何故に東部西比利亞の割壤を絕對的に必要とするか。この地域を併有せざれば、露國の勢力を削弱して、その跋扈を抑制することを得ざればなり。歐亞二大陸に跨りて、茫々たる八百六十六萬方哩の面積を有し、守るに易く

して攻むるに難し。彼が無限の慾望を逞うする所以のものは、即、この尨大なる領地を有せる爲めなれば、宜しく西比利亞全部を沒收し、その力を制限して世界の大亂を惹き起すべき禍源を除かざるべからず。西比利亞の解放は、乃ち可なり。若其の解放せる所の地域を露國の爲に奪還せられざるを期せんと欲せば、これと對抗して讓らざる我が勢力を大陸に樹立して、世界平和の保障に任ぜざる可らず。世界に於ける雄邦は露國に限りたるにあらず。而して英は世界陸地の七分の一を領して自ら海上の王と稱せり。米はモンロー主義を持して、南北亞米利加を統一して英露と世界三分の策を定めんとする形勢あり。獨は、墺匈二國を併せてバルカン半島に出で、土耳其を經由してペルシヤ

灣に出づべき鐵道を敷かんとし、又山東省を以て支那を南北に兩斷し、この極東の舞臺に於て必ず何等かの活動を演ぜずしては已まざるべし。佛國は亞弗利加の北岸に於て牛耳を執れり。而して、印度支那よりして、南清の地を窺ふや久し。凡そ天下の風雲を捲き起すべき力を有せる雄邦は決して尠きにあらざるが故に、我亦此等の大國と肩を並べて立たんと欲せば、決して蝸牛角上の一小天地に蟄伏偏在すべきにあらず。此に於てか、この興國の時運に會し、東部西比利亞を領有して以て、列國との衡平を保つは決して道理なきに非るなり。

露西亞	本國	二〇九、六〇〇〇方哩	領地 六六七、〇〇〇〇方哩
英吉利	同	一二、〇〇〇〇方哩	同 一一〇一、〇〇〇〇方哩

合衆國	同	三五六、〇〇〇〇方哩	同
獨逸	同	二一、〇〇〇〇方哩	同
佛蘭西	同	二〇、九〇〇〇方哩	同
和蘭	同	一、二〇〇〇方哩	同
比耳義	同	一、一〇〇〇方哩	同
日本	同	一四、七〇〇〇方哩	同

○東部西比利亞割壤の必要（二）

東部西比利亞は、又、滿州と蒙古との背面防禦を全うするに缺く可らざる地點なり。今日帝國が存亡を睹して戰ひたるは、この滿州の爲めにして、東洋平和の保障を確立せんことは、吾人が主要なる目的なり。この目的を達せんが爲には、獨り滿州の地域を守るのみならず、又蒙古の邊境をも守らざるを得ざるが故に、東部西比利亞の領有は我が交戰の目的を達する爲には絶對的に必要となれり。これ吾人が戰勝者たる權利として、東部西比利亞の領有を主張する所以なり。

○西部西比利亞の中立と解放

トムスク縣、トボリスク縣等の獨立諸縣と、セミレチェンスク州、セミパラチンスク州、アクモリンスク州等の曠原管區とを合せて、西部西比利亞と稱す。

吾人は何故に西部西比利亞の中立と解放とを必要とするか。この地域を占領して、然る後に中立地帶を設定するは、日露衝突の機會を永久に遏絶せんが爲めにして、又、東部

西比利亞の安寧を期する所以なり。吾人は西比利亞を占領して全部併有の愉快を念はざるにはあらずと雖、單に武力のみを以て限りなく露國と對抗することは、決して帝國の得策にあらず、また文明を催進する所以の道にもあらずと思ふ。吾人の目的は、世界の平和を永遠に確立するにあるが、故に、その道德的任務に顧み、また戰爭の慘禍を防遏する要あるを以て、西部西比利亞を中立地とし、而も此の地域を解放して世界列國と經濟上の利益を共にせんと欲す。

○中央亞細亞と高加索との中立

吾人は此の目的を達せんが爲には、獨り、西部西比利亞の解放のみを以て足れりとせず。進んで中央亞細亞を取り、又、高加索地方を取りて、之をも中立地に編入し、支那の西境、印度の北境、アフガン、ペルシヤ、アジアトルコの北境をして、すべて露國の侵略より免れしむるの必要を感ず。而も、アフガン、ペルシヤ、トルコをも、次第に中立地に編入し、北は北氷洋のチビ灣より、南はペルシヤ灣に至り、西は、裏海、黑海、多島海、紅海を限りて、こゝに世界的大共和國を建設し、列國をして、その經濟的道德的家族の伍伴に就かしむるは、吾人日本國民の一大任務にはあらざるか。又西比利亞鐵道をして中央亞細亞より土耳其に出でしめ、東亞と西歐とを經濟的に連結せしむるは我が世界政策より見て最も必要にはあらざるか。

○世界に於ける政治上低氣壓の發生地帶

見よ、東は我が隣邦たる清國より、西はアフガン、ペルシヤ及び土耳其に渉る一帶の地が世界禍亂の源となりて、政治上の低氣壓は突如この地帶に發生し、その周圍の邦國を大暴風雨の渦中に捲込まんとしたることは、前後幾回なるを知らず。この關係は、獨今日に初まりたるにあらずして、數千年來の史乘に存せり。世界の歷史上に有せる事變は概ね此の地帶に發生して、周圍に影響を及ぼしたるもの、既往かくの如く、現在かくの如く、將來も又亦かくの如くなるべきを思へば、吾人は世界の平和の爲に、こゝに一大障壁を築き、永く變亂發生の禍源を除かざる能はず。

○露國の危險、世界列國共同の敵

只吾人は如何にして此の目的を達すべきかを知らず。いづれの時代に於て、この理想を實現し得べきかを知らず。と雖も、吾人は帝國の天職に顧み、一歩にてもこの目的に達する道を求めざるべからず。而して吾人の前面に立ち、滿州を侵し、蒙古を掠め、伊犂を窺ひ、西藏を略せんとするものは露國にあらずや。

吾人は天の命を以て、この露國を擊倒し、世界第一の大國をして、すでに崩壞に瀕せしめたり。帝國たるもの、宜しく雷霆の威を以て之に臨み、彼をして起つこと能はざらしむる一大打擊を加ふべきに、中道にして兵を旋し、流星光底長

蛇を逸し去らんとするは實に終天の恨事なるかな。

○日英同盟擴張の眞意義、中央亞細亞の經略

人皆曰く日英同盟を擴張して之を攻守同盟とし、單に極東に關するものゝみに止めずして、その効力を印度の方面にも及ぼすべしと。然り、同盟擴張は我が國民の希望する所なるのみならず、又英國が熱心に渴望しつゝある所なれば、吾人は將來印度より中央亞細亞に侵入して、露國と角逐するの時必ず來るべきを想ふと雖も、我が帝國は如何なる目的を以て此の遠隔なる地域に戰はざるべからざるかを知らざるべからず。

吾人の遠征は、單に印度の安寧を目的とすべきか。只同

盟の交誼の爲めに戰ふべきか。世界第一の常勝軍と謂はれんが爲めに戰ふこと、猶滿州戰役の如くなるべきか。豈夫然らんや。

吾人の遠征は、我が帝國の世界政策の爲めにするものならざるべからず。我が帝國の世界政策は、よろしく列國共同の敵たる露國を歐州の東北に驅逐し、歐亞二大陸に渉れる政治の低氣壓發生地帶を防衛し、露國もしくは其の後繼者たる獨逸、その相棒として現はるべき獨逸、危險千萬なる獨逸、世界の注意人物として扱ふべき獨逸、遼東半島奪取の主唱者たりし獨逸、又は獨露の同盟をして、此低氣壓發生地帶に接近せしめざることを不拔の目的とせざるべからず。

吾人はこの目的を達せんが爲めに日英同盟條約の擴張

を主張す。又この目的を達せんが爲めには、佛國をして露國と離れしめ、日英佛の同盟として、獨露の同盟と對抗せしむるの必要を認む。又この目的を遂げんが爲めには、以太利墺太利をして獨逸と離れしめ、日英佛以墺の同盟として、獨露の同盟と對抗するの妙なるを想ふ。

吾人が他日中央亞細亞に出兵するは、よろしく此の如き雄偉なる世界政策の上より打算されざるべからず。而してこの世界政策は世界の武力的統一に對する道德的聯盟といへる我が日本の天職に基きたるものならざるべからず。我が帝國の出兵は、此に於てか初めて光輝あり意義あり終始あるものとなる。我豈單に印度の爲めに無用の勞を執るものならんや。我豈同盟國の故のみを以て無益の

血を流すものならんや。同盟は我が目的を遂げんが爲めの手段のみ。

吾人は我が世界的大事業を遂行せんが爲めに日英同盟の擴張を希望す。この世界的大事業が遂行せらるゝ時に於ては、獨り印度が救はるゝのみにあらずして、清國も亦救はるべく、アフガン、ペルシヤ、トルコ、匈牙利も又亦保護せらるべく、ポーランド、フィンランドの如きものすら露國の壓制の手より脱して獨立の機會を得るに至らん。

中央亞細亞の征服は、此の如き理由に基き、將來帝國の軍隊によりて決行せらるゝの時あるべしと雖も、今日、西比利亞經略の端緒を啓くにあらずんば、吾人は他日如何にして中央亞細亞經略の大目的を遂ぐるを得べき。この目的に

して遂げられずんば、印度の防衛も絶望なるべく、日英同盟の擴張も全く無意義に了るべきに、兩國政府の活動が未だ此點に進む能はず、世の政治家の着眼が未だ此點に及ぶ能はず、擧世滔々として、只目前の一小利害にのみ忙殺せられ、この千載一遇の時運に會して、遂に何事も爲すなきに終らんとするは惜むべきかな。

○西比利亞鐵道の將來、國際貿易の中心

吾人は又我が西比利亞の新領土が農産水産畜産及び鑛産物の資源となりて、我が島帝國商工業の原料を供給するのみならず、是等の粗製品は西比利亞より中央亞細亞の鐵道を經て、土耳其、匈牙利、墺地利の各地に到り、これより歐州列國に分配せられ供給せられて、茲に國際貿易上至大の結果を來たすべきの時あるを想ふ。而も、今日の時局に於て、西比利亞及び中央亞細亞の經略が我が國民の夢想にだも上らざるが如くんば、國際貿易の發展は遂行せらるゝの時なくして、我が日本は海上の一小島國として終らざるを得ざに至らん。

吾人は國際貿易は、將來必ず西比利亞、中央亞細亞、イラン高原を中心として洋の東西に推し及ぼし、東は南北亞米利加の縱貫鐵道に聯絡し、西は歐州の鐵道叢に連結し、又、亞弗利加のナイル縱貫鐵道線、サハラ横斷鐵道線にも聯絡して、一大活動をなすの時あるを信ぜんとす。白雪地を埋むる處に産する魚族が、陸續印度に入來りて、菩提樹の蔭、以て盛

膳を賑はすべく、驕陽天を焦す處に生ずるバナナ、アナナス等の熱帶果物が轆轤極北の野に輸送せられて、人の舌鼓を打たしむるは、將に遠きにあらざるべし。而も、邦人之を察せず、この小天地に跼蹐して、姑息の夢に耽らんとするは、眞に終天の恨事なるかな。

第六章　講和談判の時機

講和談判の條件が、帝國上下の希望を滿たすに足らざるは、軍事行動の進捗が十分ならざるに原因す。軍事行動の進捗が十分ならざる今日に於て講和談判を開催するは、帝國戰勝の効果をして一空に附せしむるものなることを切論す。

世の政治家が今日唱道する所の日露講和の條件が極めて軟弱不利なる所以は、軍事行動の發展が尙十分ならざるが爲めにして、我が帝國は未だ講和を行ふの時機に達したるにあらざるなり。

○姑息の講和論を排す（一）

講和論者多くは曰く、帝國が露國の領土を割壤せしむる能はざるは、未だ西比利亞に於て寸毫も土地を占領せざる

が爲めなり。只、我が軍費を悉く償還せしむるは頗る困難なる事情存するが故に、我は軍費の代償として、沿海州の割壤を要求すれども、それすら露國の承服を得るは容易にあらざるべきが故に、我は黑龍江口の以南にある沿海州の一部に甘んぜざるべからずと。嗚呼是何等の囈語ぞや。

帝國が露國討伐の師を起せるは、單に滿州の故のみならずして、東洋平和の保障を確立せんが爲なり。又、彼の露國が歐亞二大陸に跨りて、守るに易く攻むるに難き廣大無邊の領土を掩有するとは、世界の平和を脅かす原因なるが故に、この危險を除却して、以て帝國の天職を全うせんが爲ならずや。吾人が東部西比利亞に一大帝國を立てんとするは我が國力が現在の狀態にては、强大國の間に重きをなさずして、その道義的天職を全うすること能はざるが爲めならずや。然るに戰局の發展は未だ西比利亞の野に達せず、ハルビン、ウラジオストックすら占領するを得ざる今日、彼等政治家は、何の爲に倉皇として兵を旋し、一時姑息の和を講じて、百戰百勝の結果を空しうせんとするか。

○姑息の講和論を排す（二）

退讓、又退讓、此の如くして止まる所を知らざるは、講和論者の現狀なり。況して今日政客の互に私語する所を聞けば、沿海州は、寸壤尺土すら割くを要せず、只樺太回復のために、償金の中より若干を減じて、以て希望を達すべく、ウラジオストックは武裝のまゝ北滿州と共に露國の有とし、我は

現在占領の南滿州を境として、兵を撤すべしと謂ふ者すらもあるにあらずや。此の如くんば、我が帝國は敗軍の地位にあるものなり。知らず、五千萬同胞も、亦この講和論者と共に、卑屈怯懦なる政客と共に、この千載拭ふべからざる恥辱を受けざる可らざるか。

苟も血あり涙ある者は之を聽くべし。十萬の生靈は、空しく滿州の野に哭して、歸する所を知らざらんとす。交戰の目的は藐視せられ、祖宗の皇謨は無視せられ、帝國千年の大計は玆に全く破却せられて、全く絶望に歸せんとす。この危急の場合に當りて、各新聞紙が侃諤の論議を唱へて、以て事局を救はんと試みざるは何の故ぞ。同胞五千萬人が皆一齊に奮起して、この國難を靖んずるは、實に方今の急務にあらずや。帝國百萬の軍隊が、鼓を鳴らして世の責任なき政治家を攻むるも、方に今日にありと知らずや。而も、目下の時局に際して一人の起つて抗爭するものなきは何ぞ。

○講和全權委員に望む

只我が講和全權委員は當世稀に見る奇傑の士なり。彼能く血あり涙あらば、國家傾覆の大難は、或は幸にして救はるべく、日に頽廢して已むところなき國民精神の凋落も、敢て或は挽回の氣運なきにしもあらざるべし。

一人の行藏も實は天下の氣運に關す。吾人は必ず全權委員が能く中外の望に負かず、この談判を不調に終らしめ、光輝あり、又名譽ある外交上の勝利を贏ち得て歸朝するの

日を待たんとするなり。

○露國誠意なし、是一時の休戰のみ

聞く今日の戰局にては、未だ割地の目的を達する能はざるのみならず、軍費の賠償をすら十分には望むべからず。もし、日本に支拂ふことを得る多少の餘財ありとせば、露國は之を軍費に供して、飽迄戰ふべしと主張す。されば今回行ふべき講和談判の結果としては、到底償金は絶望なるべし。已むなくんば多少の軍費を償はしめて以て戰局を結ぶべきのみと。果して然るか。然らば、露國は講和の誠意なきものなり。その講和は一時の休戰を行ひて、再擧を圖らんが爲めにするもの、一旦報復の時機來らば猛然として

起つて滿州を爭ふべきは、瞭然火を睹るよりも明なり。

交戰の費用、彼が一歲に費すところ三十億圓にも上るべし。彼若し講和の誠意あらば、全く勝利の見込なき滿州の地に戰ふよりは、寧ろ多年の非望を捨てゝ、悔悟の實を示すべきのみ。然るに露國の爲す所、此處に出でず、尙軍費の賠償を惜むが如き形跡あるは、其の志のある所尋常ならざるを知るに足る。此の如くんば、我は飽迄武力を以て彼を紛齏し盡すべきに、擧世滔々、淸正に行かずして、行長に與し、再び文祿の轍を履まば、後世、百の豐太閤を輩出せしむるの時ありとも、復奈何ともする能はざるべし。

○姑息の講和論を排す（三）

講和論者或は曰く、帝國の任務の遠大なることは人の皆知る所と雖も、斯かる遠大なる事業は一朝一夕の能する所にあらざるが故に、漸次力を養成して以て終局の目的を達すべきのみ。南滿州の經略は是れ北滿州經營の段梯を造る所以にして、北滿州の經營は西比利亞領有の地盤を造る所以なりと。彼等は徒に着實を裝ひ、その手段の老熟に誇れりと雖も、五年十年にして我が動かんとする時は、是れ西比利亞の防禦の備はる時にして、今日の如く長驅直に歐露に迫るの希望を抱くべくもあらず。之に加ふるに、敵は內治を整理して、最早再び今日の如く紛擾を釀すことあらざるべく、又外交の鞏固を得て、孤城落日の嘆を發することあらざるべし。

○露國の內治外交の瓦解、革命的氣運

今日は是如何なる時ぞ。內には、擾亂蜂起して事態益々紛糾を極め、外には、露佛同盟の瓦解を來たさんとする兆あり、敵は益々困難の事情に逼りつゝあるにあらずや。

奉天の大敗、婆羅的艦隊の全滅が、露國革命黨崛起の一大動機となりて、同盟罷工は全國到る處に爆發し、ロッツに起れる示威運動は忽ち軍隊と衝突して、殺傷幾百人の多きに達し、カルコフに於ては兵士すら農夫に對して發砲することを峻拒して、却つて加擔するに至り、ポーランドにては激烈なる爭鬪起りて、二千餘名の死傷を生じ、コーカサスにては、全然無政府の慘狀を呈して、官衙と認めらるべきものなく、

ゴリに於ては小共和國建設せられたりといふにあらずや。

殊に世界各國を驚駭せしめたることは、是等の革命的氣焔がすでに軍人社會に及びて、チデッサにては水兵が軍艦を以て叛を謀り、乘組將校を殆ど全く虐殺したる事實是なり。黑海艦隊の危變と同時に、婆羅的海の軍港たるクロンスタット、リバウに於ても叛亂起り、尙幾多の暴動が各地に起らんとする形勢を見れば、露國はすでに無政府の境に沈まんとするものなるに、ロマノフ朝の威信地に墜ちんとするを見て、獨逸は忽ちモロッコ問題を提起し來り、突如佛國に一擊を加へて、非常の狼狽を惹き起せり。

この突擊は、露佛同盟の鼎の輕重を試みたるのみに止らず、又英佛協商にも巨石を投じ、英が如何なる程度まで信賴

するに足るべきかを佛國に知らしめ、能ふべくんば自ら同盟の主腦となり、露佛兩國を其手に握らんとする下心にはあらずやと疑ふ。

堂々たる露佛同盟が、獨逸のために此の如く飜弄せらるるに至れるを見れば、歐州第一の雄邦と稱せられたる露國の潰敗の度も察するに足るべく、この境遇に墮ちたる露國は、將に一年ならずして、自然に崩壞し去らんとするなり。

天が我國をして其の重任を全うせしめ、其の目的を遂げしめんが爲め、便宜を與ふるや此の如し。然るに、昧者之を察せず。この曠古の義戰をして全く意味なきものたらしめ、帝國の前途をして一點の光明なきものたらしめんとす。歎ずべきかな。

○姑息の講和論を排す（四）

彼の姑息の講和を主張するもの又曰く、帝國の任務の重大なることは、敢て知らざるにあらずと雖も、その前途に横はる西比利亞の地は、廣漠無邊、之を領有することは容易にあらざるを奈何せんと。彼等は徒に地圖を披き、その地域の尨大なるに驚くと雖も、殊に知らず、我が進軍の經路は鐵道沿線の地に過ぎざるが故に、十里を進めば直に百方里の土地を獲得する結果を生じ、百里を進めば、一萬方里の地域を占領したると同一の効果を生ずべきことを。

○西比利亞占領の効果

清露國境のシビリ驛よりバイカル湖畔のミソワヤ停車場に至るまで七百五十哩に過ぎず。而して我軍の尖頭が此處に達したる時は後貝加爾州、黑龍州、沿海州、及び樺太に渉れる百十五萬五千方哩の土地は、自然の結果として、我が占領に歸すべきなり。否、バイカル湖より極北のチェリュースキン岬に達する一線を劃して、其の以東の地、即、ヤクーツク州百五十三萬方哩の領域も、これと共に我が占領に歸すべきが故に、僅に七百五十哩の進軍を以てして、二百六十八萬五千方哩の地域を征服し得べき理なり。西比利亞進擊の結果の大なるは之を以ても知るべきにあらずや。

○姑息の講和論を排す（五）

又彼の講和を主張するものは、軍費の莫大なるべきことを喋々すれども、軍費の如きは能く内外の公債を以て優に支ふることを得べく、而して、一歳の軍費七億三千萬圓を公債のみにて支ふるとするも、之を帝國の八百萬戸に配當して、一日二十五錢に過ぎざるにあらずや。況して、國庫は此外に戰時稅の收入あるべく、外國公債に依賴することをも得べきが故に、其半數と見積るとも、内國債は三億六千五百萬圓を超えざるべく、これが應募者を八百萬戸とする時は一戸一日の貯蓄する所は二錢五厘を以て足れりとすべし。一日十二錢五厘の貯金を以て、東部西比利亞三百九十六萬方哩の領土を購ふを得ば、天下、又是程廉價なるものあらざるべく、而して、その貯金も貯蓄者の囊裡を離るゝには

あらず、國庫債券となりて、その手に殘るべきが故に、一年にして三億六千五百萬圓を積み、五年にして十八億二千五百萬圓の貯蓄をなし得ることゝなるべし。

○軍費の資源、内債、外債

この債券を剩し得て、而も東部西比利亞約四百萬方哩の領土を獲、その廣大なる地域には、幾百萬人の少壯男子を上陸せしめて、我が日本の一大領地を現出す。露國討伐の功勞が徒爲に屬せざるものなることは、之を見ても明らかならずや。

單に内國債のみの募集を以てしても、軍費の支出に難からざる事、此の如し。況して、外債に依賴すれば、幾億、幾十億

の巨額と雖、優に募集することを得て、又内地の應募を煩はすにも及ばざるべし。

帝國の富力は當時、二百億圓に達し、經濟の進歩は、駸々として停止する所を知らざるにあらずや。臺灣、北海道、皆抵當に供して可なり。これを敗軍の結果に想ひ到るあらば、尚他の土地の如きものも、外債の擔保として、決して失當にあらざるべし。

舉世滔々、皆戰勝の餘榮に醉ひ、一人として敗軍の結果を想ふ者なしと雖も、若夫東郷大將の戰略宜しきを得る能はずして、反對の結果を來たしたりとせば如何。滿州にある我が百萬の大軍は、忽ち糧道を中斷せられて、進退谷まるに至るべく、而して、對馬は攻略せられ、北海道は掠奪せられ、臺灣、九州、四國、乃至本州と雖も、到る處砲擊せられ威嚇せられて、我は最も不名譽なる條件により、降伏せざるを得ざるに至れりとせば如何。

謂ふを休めよ、神州幾千萬の男兒ありと。彼のウラジヲ艦隊が、津輕海峽を中斷し、奥羽地方を迂廻して、來つて東京灣を窺ひ、傲然として我に侮辱を加へたるは、我が國民の耳目に新なる所にあらずや。

外債何かあらん、土地の抵當何かあらん。見よ、列國の外債が今日如何なる狀況にありて、而して、我國の外債が如何なる程度に止れるかを。

露西亞國債	六十三億三千萬圓	一人の負擔額	四十九圓十二錢
英吉利同	六十一億二千萬圓	同	百四十九圓六十六錢

佛蘭西	同	百十六億二千萬圓	同
獨逸	同	十一億一千萬圓	同
北米合衆國	同	十九億三千萬圓	同
伊太利	同	五十一億六千萬圓	同
墺地利匈牙利	同	三十億八千萬圓	同
日本	同	四億一千萬圓	同

三百一圓十二錢	
十九圓九十二錢	
二十四圓五十錢	
百六十二圓二十二錢	
七十二圓六十四錢	
九圓四十六錢	

方十六萬哩に滿たざる土地を抵當として、これが戰費を調達し、而して東部西比利亞三百九十六萬方哩の領土を獲得す。帝國百年の此大計、此に於てか確立せん。

○帝國の武力、最後の勝利

今日出征の軍人は、幾十萬の多數に上りて、向ふ處、草木拔靡し、而して、士氣の旺盛なる、精神の雄大なる、射術の精妙なる、組織の完全なる、給養の豐富なる、露軍は謂ふまでもなき所、如何なる强國の海陸軍を以てしても、到底匹敵する能はざるものなることは、世界の公論の明認したる事實なり。

この勇武なる常勝軍の背後には、收めて以て兵とすべき二十歳以上三十歳迄の壯丁三百八十萬を有し、更に三十歳以上四十歳迄の男子二百九十萬、十七歳以上二十歳迄の男子百五十萬、合計八百二十萬の武力を有す。以て露國を粉齏すべし、以て覇業を確立すべし。この大兵を以て、亞細亞大陸に突進し、將來世界の寶庫といふべき、富有彼が如き西比利亞の沃野に據らば、勝敗の數、豫め知るべし。又何を苦んでか蒼皇として軍を旋し、未交戰の目的を達せざる今日に於て、姑息の和議を許すを要せん。

○興國の氣運、卓勵風發、千載一遇の時

これを聞く、我が同盟の英國が昔眇たる海島を以て、旭日冲天の勢ある佛の大軍に抗するや。彼の千古の怪傑たる一世ナポレオンをして、殆ど一指をだも觸れしめず、二十餘年の永き間、八十三億圓の軍費を供して、遂にワートルローの原頭、前代未開の武勳を奏して、世界の覇業を立てたるなり。この不拔の忍耐と、不屈の精神のあればこそ、彼等英人は、赫々たる最後の勝利を收め得て、以て今日隆々たる國運發達の基礎をも啓き得たるなれ。然らずんば、爭でかラテン民族を擊つて、勝利の月桂冠を載くを得んや。

我が國民にして、道德的世界統一の大業を遂行するの要なしとせば、則可なり。亞細亞大陸に版圖を擴めて、世界强大國の首班に立つを要せずと謂はゞ、亦不可なし。然らずんば、上下一致、必ず長期の戰爭に耐え、敵國をして我が指命の條件によつて降を乞はしめざるべからず。

帝國軍人が　陛下の御心を心として、天訓皇謨を全うし、宇内列國をして我國の威烈を仰ぐに至らしむるは、實に今日にありと知らずや。帝國五千萬同胞が、世の政治家を鞭韃して、姑息の言說を吐かしめず、外征軍人の後援となりて、國家千年の大策を遂行するも亦今日にありと知らずや。

國家の興亡は、係りて卿等の双肩にあり。吾人は、卿等が卓勵風發、必ず一代の志氣を皷舞して、姑息の空氣を一掃し、交戰當初の目的を達せずんは已まざるを知るなり。

陛下聖明、優詔を講和全權委員に降して、『卿等其れ專心從事、平和を永遠に恢復するの目的を達せんことを努めよ』と宣ふ。征露の戰局は誠に祖宗列聖が我國をして其光榮なる職責を行はしめんが爲めに與へたる機會なり。帝國臣民はこの千載一遇の時に於て、世界平和の保障を立て、列國をして喜んで其惠に浴せしめよ。我が帝國の天職は此の如くして始めて遂行せらるべく、宇内列國は此の如くして四海兄弟の樂を享くべく、天下は此の如くして始めて道德的統合の宿志を達することを得ん。

日露戰局 **講和私議** 終

明治三十八年七月八日印刷
明治三十八年七月十七日發行

定價金四拾錢

著作者 西澤之助 東京市本郷區駒込蓬莱町五番地
發行者 木村知治 東京市本郷區本郷六丁目九番地
發行所 太陽舍 東京市本郷區本郷六丁目九番地
印刷者 河本龜之助 東京市京橋區築地二丁目二十番地
印刷所 株式會社國光社 東京市京橋區築地二丁目廿一番地

自轉載

專所賣

東京 文學館
東京 實業之日本社
東京 今古書店
大阪 前川十郎
弘前 岡本平助
長野 長尾郎
長岡 山田清兵衛
福井 黒崎忠次郎
山形 泉源寺
福岡 西澤書店
名古屋 目黒太郎
古屋 大塚儀太郎
風川 菊池書店
永代 竹林堂
瀧川 東京堂
仙臺 藤崎祐之助
山形 五十嵐右衛門
福井 品川友右衛門
金澤 宇都宮書店
富山 中田清兵衛
熊本 長崎次郎
姫路 木村書店
東京 鶏聲堂
福岡 積善館
岡山 武内彌三郎
廣島 積善館
徳島 黒崎精二
香川 宮脇仲次郎
宇和島 石崎忠八
鹿兒島 吉田吉之助
大分 甲斐文次郎
新潟 北光社
土浦 伊沼書店

32

8420

84
230

002853−000−4

84−230

日露戦局講和私議

西沢　六助／著

M38
ACB−6369